

第三国研修調査団報告書

—シンガポール・港湾管理・港湾機器—
維持管理研修管理調査

—タイ・口蹄疫防疫エバリュエーション調査—

—タイ・プライマリー・ヘルス・ケア・コンタクト—
ミッション

昭和61年10月

国際協力事業団
研修事業部

研 管

J R

86-33

第三国研修調査団報告書

—シンガポール・港湾管理・港湾機器—
維持管理研修管理調査

—タイ・口蹄疫防疫エバリュエーション調査—

—タイ・プライマリー・ヘルス・ケア・コンタクト—
ミッション

JICA LIBRARY



1046486[1]

昭和61年10月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 1. 20	119
登録 No.	15838	72.8
		TAD

は じ め に

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れ、より現地事情に適合した技術・知識の移転を図り、これにより開発途上国間協力の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入れ事業を実施できるよう協力することを目的としている。昭和49年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和60年度には15ヶ国において22コースを実施するに至っている。

本報告はA P C - H R D緊急行動計画の一環としてシンガポール港湾庁の協力のもとに実施している「港湾管理コース」、「港湾機器・維持管理コース」の今年度評価調査、タイ畜産開発局の協力のもとに実施してきた「口蹄疫防疫コース」の過去5年間にわたるエバリュエーション調査及びタイ・マヒドン大学アセアン・トレーニングセンターの協力のもとに実施が計画されている「プライマリー・ヘルス・ケア・マスターコース」のコンタクトミッションの報告書である。

調査団は上記4コースについて評価・調査及び協議を先方関係者で行なってきたが、とりわけ、タイ「口蹄疫防疫コース」については第三国研修実施以来、初めての本格的なエバリュエーション調査であったところ、今後の終了時評価の方向性を示すものとして活用されれば幸いである。

最後に、本調査団の派遣に際し、並々ならぬ御協力を賜った外務省、農林水産省、在シンガポール日本大使館及び派遣専門家の各位に深く感謝の意を表したい。

昭和61年9月

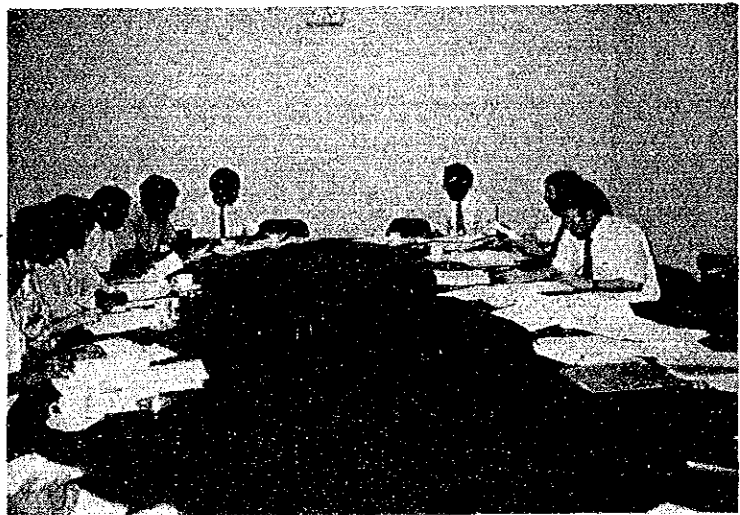
研 修 事 業 部 長

① シンガポール「港湾管理コース」
における評価会風景



② タイ「プライマリー・ヘルス・
ケア」Dr. NATTH との会談風景

③ タイ「ロ蹄疫防疫コース」におけ
る評価会風景



要 約

シンガポール第三国研修「港湾管理コース」、「港湾機器・維持管理コース」の評価はわが方調査団と「シ」側との共同作業によってとり進められ、両コースとも研修内容・実施方法及び運営・管理等全般にわたって良好な評価結果が得られ、所期の目的を達成したとの結論を得た。評価結果はサマリーレポートにとりまとめ、Minutes of Discussions の資料として添付された。Minutes of Discussions はその内容につき、外務次官の承認を得、TANアセアン局長の署名後、日本に送付越され、石崎管理課長のカウンターサインを得ることとなっが、これはこのまま実行された。

タイ第三国研修「口蹄疫防疫コース」のエバリュエーション調査もタイ側との共同作業によってとり進められ、5年間にわたる研修についてその内容、実施方法及び運営、管理等全般は適切であったとの評価を得、所期の目的は達成されたとの結論を得た。評価結果はサマリーレポートにとりまとめられ、Minutes of Discussions の資料として添付された。日・タイ間でMinutes of Discussions の内容につき合意に達し、TIM畜産開発局長と石崎団長により署名された。

タイ第三国研修「プライマリー・ヘルス・ケア・マスターコース」コンタクトミッションは本研修実施にかかる背景・内容及び基本的事項を先方関係者との協議で確認するとともに、実施機関であるマヒドン大学アセアン・トレーニングセンターの施設等を見学した。

目 次

はじめに	
写 真	
要 約	
I 調査団派遣の概要	1
1. 派遣目的	1
2. 調査団員の構成及び派遣期間	1
3. 調査日程及び主要面談者	1
II シンガポール第三国研修・研修管理調査団報告	13
－港湾管理、港湾機器維持・管理－	
1. 研修管理調査団の派遣	15
1.1 派遣に至る経緯と目的	15
2. 研修計画	15
2.1 経 緯	15
2.2 研修計画	16
(1) 協議議事録	16
(2) 実施要領	16
2.3 実施機関	16
(1) P S Aの概要	16
(2) P S Aにおける研修の概要	17
3. 研修実績	18
3.1 参加研修員	18
3.2 カリキュラム	22
3.3 使用教材	24
3.4 日本の協力	25
4. 評価事項	26
4.1 調査・協議全体工程	26
4.2 評価作業	26
(1) 評価方法	26
(2) 文書作成	27

4.3	コース評価	28
	A 港湾管理コース	28
	B 港湾機器維持・管理コース	29
4.4	日本の協力	30
5.	関係者の評価	33
5.1	研修員による評価	33
5.2	実施機関による評価	40
5.3	専門家による評価	40
6.	総合評価	43
6.1	港湾管理コース	43
6.2	港湾機器維持・管理コース	43
III	タイ第三国研修エバリュエーション調査団報告	45
	－口蹄疫防疫－	
1.	エバリュエーション調査団の派遣	47
1.1	派遣に至る経緯と目的	47
1.2	評価の方法	47
2.	研修概要と実績	47
2.1	経緯	47
2.2	研修計画	47
2.3	実施機関	47
	(1) 組織図	48
	(2) 研修指導体制	48
	(3) 研修運営体制	48
	① G.I.の送付	48
	② 運営管理	48
	③ 予算措置	48
2.4	研修員受入実績	49
2.5	日本の協力実績	49
	(1) 経費	49
	(2) 専門家派遣及びカウンターパート受入れ	50
3.	評価活動の実績	51
3.1	各種評価の結果とその内容	51

(1) 研修参加の必要性についての評価	51
(2) 参加者の選定についての評価	52
(3) 専門家報告による評価	52
(4) クエスチョネアによる評価	53
(5) 実施機関による評価	55
4. 終了時評価	56
4.1 評価方法及び評価作業	56
4.2 評価結果	56
(1) 研修内容と研修実施	56
(2) 業務への適用性	58
(3) 期待感の充足度合	59
(4) その他	60
4.3 文書作成(ドキュメンテーション)	60
IV タイ第三国研修コンタクトミッション報告	61
— プライマリー・ヘルス・ケア —	
1. コンタクトミッションの派遣	63
1.1 派遣の経緯と目的	63
2. 要請の背景	63
3. 研修概要	63
(1) 目的と内容	63
(2) 特徴	64
(3) その他	64
(4) シラバス	65
4. 本研修に関するタイ側の考え方	66
4.1 日本人専門家団との打合せ	66
4.2 Natth 学長との会談要旨	66
4.3 ATC/PHC関係者によるPHC第三国研修概要説明要旨	67

別添資料

I	シンガポール・港湾管理、港湾機器維持管理	69
1.	Minutes of Discussions	71
2.	実施要領	91
3.	JICA クェスチョネア (港湾管理コース)	97
4.	PSA エバリュエーションシート (港湾管理コース)	106
5.	PSA エバリュエーションレポート (港湾管理コース)	113
6.	港湾管理コース概要 (日程・講師リスト・研修員リストを含む)	122
7.	港湾管理コース・研修科目の範囲	140
II	タイ・口蹄疫防疫第三国研修	145
1.	Minutes of Discussions	147
2.	企画委員会・実施運営部・各セッション座長及び講師リスト	166
3.	教材リスト	185
4.	研修員リスト	193
5.	JICA クェスチョネア	205
6.	DLD エバリュエーション	210

I 調査団派遣の概要

1. 派遣目的

本調査の目的は 1986 年度シンガポールにおいてアセアン太平洋人造り緊急行動計画（APO-HRD 緊急行動計画）の一環として実施された「港湾管理」、「港湾機器維持・管理」の両コース及びタイにおいて 1981 年より 5 ケ年にわたり実施されてきた「口蹄疫防疫」コースについて①コース内容、②コース運営の両面から評価を行なうとともに、「港湾管理」コースに関しては、「シ」側の次年度の研修実施の意向確認を行うことにある。併せて、タイ第三国研修案件「プライマリー・ヘルス・ケア」の要請背景・内容を確認することを目的とする。

2. 調査団員の構成及び派遣時期

担 当	氏 名	所 属 先 及 び ポ ス ト
団長 総 括	石 崎 光 夫	JICA 研修事業部管理課長 (昭和 61 年 7 月 14 日～昭和 61 年 7 月 27 日)
団員 研修計画	江 口 肇	運輸省港湾局建設課国際協力室長 (昭和 61 年 7 月 14 日～昭和 61 年 7 月 20 日)
団員 研修評価	小野寺 節	農林水産省家畜試験場海外病研究部免疫研究室長 (昭和 61 年 7 月 20 日～昭和 61 年 7 月 25 日)
団員 協力評価	矢ヶ崎 忠 夫	農林水産省畜産局衛生課長補佐 (昭和 61 年 7 月 20 日～昭和 61 年 7 月 25 日)
団員 研修管理	北 中 真 人	JICA 研修事業部管理課 (昭和 61 年 7 月 14 日～昭和 61 年 7 月 27 日)

3. 調査日程及び主要面談者

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
7/14 (月)	22:45 ~ 00:00 宿舎	JL719 成田ーシンガポール 石崎団長、江口、北中団員 業務打合せ、クエスチョネ ア分析		評価調査団 奥出専門家
7/15 (火)	9:30 ~ 10:00 在シンガポール日 本大使館	大使館表敬、調査団派遣の 背景及び目的説明		河野、中崎一等 書記官、米田所 員、評価調査団

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
	10:15 ~ 10:45 JIOA シンガポ ール事務所	業務打合せ、会議用資料作 成		田中所長、米田 所員、評価調査 団
	11:00 ~ 12:00 City Hall	第一回全体会議	Mr. TAN KEN- G JIN (Director Gener- al) Mr. ONG LU KING (Senior Assista- nt Director) Mr. CALVIN EU (Assaistant Dre- ctoer) Mr. TONG TEK LIONG (Country Officer) Mr. PETTER CHUA (Country Officer) 以上「シ」外務省 アセアン局 Mr. J MENON (Training Manage- r) Mr. LEE HEE HUAT (Senior Training Officer) Mr. TAN HONG CHUAN (Assistant Secr- etary) 以上 PAS Mr. CHAN WIMG DAI (CATC SUPER- INTENDENT) Mrs. SALLY ANG (Senior training officer) 以上 CATC	田中所長、米田 所員、評価調査 団
	14:00 ~ 16:00	港湾管理コース合同評価	Mr. J MENON	評価調査団

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
			(Training Manager) Mr. LEE HEE HUAT (Senior Training) Officer)	
	17:00 ~ 19:00 宿舎	クエスチョネア分析		評価調査団
7/16 (水)	9:00 ~ 12:00 宿舎	クエスチョネア分析 Minutes 案作成		評価調査団
	13:00 ~ 19:00 宿舎	Minutes 案作成		評価調査団
	22:00 ~ 00:00 宿舎	Minutes 案作成		評価調査団
7/17 (木)	9:00 ~ 12:00 宿舎	Minutes 案作成		評価調査団
	13:00 ~ 18:00 宿舎	Minutes 案作成		評価調査団
	18:30 ~ 21:00 Pavilion Inter- Continental Hotel	夕食会 (港湾機器維持管理 コース参加研修員へのイン タビュー) クエスチョネア回収	港湾機器維持管理 コース参加研修員 Mr. NG KIM CHANG (Deputy Director Personnel Divisi- on) Mr. J MENON (Training Manager) Mr. MMAHEND- RAN (Senior training officer) 以上 P S A	田中所長、米田 所員、奥出専門 家

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
7/18 （金）	22:00 ~ 1:00 宿舎	クエスチョネア集計・分析 Minutes 案作成		評価調査団
	9:00 ~ 11:20 宿舎	Minutes 案作成		評価調査団
	11:00 ~ 12:30 PSA	港湾機器維持管理コース合 同評価、Minutes 案検討	Mr. J MENON (Training Manager)	評価調査団
	14:00 ~ 16:00 City Hall	第 2 回全体会議	Mr. TAN KENG JIN (Director Genral) Mr. ONG LU KING (Senior Assistant Director) Mr. CALVIN EU (Assaistant Dree- toer) Mr. TONG TEK LIONG (Country Officer) Mr. PETTER CHUA (Country Officer) 以上「シ」外務省 アセアン局 Mr. J MENON (Training Manager) Mr. LEE HEE HUAT (Senior Training Officer) Mr. TAN HONG CHUAN (Assistant Secr- etary) 以上 PSA	田中所長、米田 所長、評価調査 団
	16:30 ~ 17:30 PSA	港湾機器維持管理コース閉 講式出席	Mr. NG KIM CHANG (Deputy Direcor Personnel Divisi- on) Mr. J MENON	田中所長、米田 所員、奥出専門 家

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
7/19 (土)	18:00 ~ 20:00 宿舎	Minutes 案作成	(Training Manager) Mr. MMAHEND- RAN (Senior training officer) Mr. LEE HEE HUAT (Senior Training officer) 以上 PSA	評価調査団
	9:00 ~ 10:00 宿舎	Minutes 案最終チェック		評価調査団
	10:30 ~ 11:30 City Hall	外務省に Minutes 案提出 ・説明	Mr. TONG TEK LIONG (Country Officer)	評価調査団
	11:20 ~ 12:00 JICA シンガポ ール事務所	JICA 事務所へ報告		田中所長、米田 所員、評価調査 団
	12:30 ~ 14:30 Crown Prince Hotel (Feng Cheng Iou Restaurant)	昼食会	Mr. ONG LU KING (Senior Assistant Director) Mr. CALVIN EU (Assistant Direc- tor) Mr. TONG TEK LIONG (Country Officer) Mr. PETER CHUA (Country Officer) 以上「シ」外務省 アセアン局 Mr. J MENON (Training Manager) Mr. LEE HEE HUAT (Senior Training Officer)	田中所長、米田 所員、評価調査 団

日 時	場 所	内 容	「シ」側出席者	日本側出席者
7/20 (日)		JL714 シンガポールー成田 江口団員帰国	Mr. TAN HONG CHUAN (Assistant Secretary) 以上PSA Mr. CHAN WIM WIMG DAI (CATC Superintendent) 以上CATC	
		TG404 シンガポールーバンコック 石崎団長、北中団員移動		
		JL717 成田ーバンコック 小野寺、矢ヶ崎団員		
	19:00 ~ 21:00 宿舎	業務打合せ		伊藤長期調査員、 三苦所員
7/21 (月)	17:45 ~ 20:00 宿舎	業務打合せ		エバリュエーシ ョン調査団
7/22 (火)	9:00 ~ 10:10 JICAタイ事務所	訪問、調査団来タイの背景 及び目的説明		後藤所長、三苦、 甲斐、エバリュ エーション調査団
	10:45 ~ 11:45 DTEC(タイ技術 経済協力局)	表敬、調査団来タイの背景 及び目的説明	タイ側出席者 Mr. SUMATHEE SRISUCHART (Director, Exter- nal Cooperation, Division2) Mr. MANOP TH- ANG-USAHA (Chief, Thai Aid Program)	三苦所員、エバ リュエーション 調査団
	14:00 ~ 16:30 DLD(畜産開発)	口蹄疫防疫コース合同評価	Dr. PINIT SUP- HAVILAI	三苦所員、エバ リュエーション

日 時	場 所	内 容	タイ側出席者	日本側出席者
	局)		(Deputy Director General) Dr. SUTHUM PUNYA-UPAP-AT(Director of Vet. Biologies Div.) Dr. THINAKORN CHANDAK AEW (Chief of FMD Center) Dr. AB KONTHON (Staff of FMD center) Dr. SUNEEJIT KONGTHON (Staff of FMD center) Dr. VISES PRASERT (Coordinator) Dr. AMONG BINTAVINOK (Staff of Coordination)	調査団
	18:00 ~ 20:00 宿舎	クエスチョネア分析		エバリュエーション調査団
	21:00 ~ 23:30 宿舎	クエスチョネア分析		エバリュエーション調査団
7/23 (水)	9:00 ~ 12:00 JICA タイ事務局	Minutes 案作成		エバリュエーション調査団
	18:00 ~ 14:30 JICA タイ事務局	Minutes 案作成にかかる打合せ	Dr. VISES PRASERT (Coordinator)	エバリュエーション調査団、
	14:30 ~ 17:30 JICA タイ事務局	合同評価会 Minutes 案検討	Mr. MANOP THANG-USAHA (Chief, Thai Aid Program) Mr. VARAVUD	三苦所員、エバリュエーション調査団

日 時	場 所	内 容	タイ側出席者	日本側出席者
			TOMN (Technical officer, Thai Aid Program) 以上 DTEC Dr. SUTHUM PUNYA-UPAPAT (Director of Vet. Biologics Div.) Dr. THINAKORN CHANDAKAEW (Chief of FMD Center) Dr. AB KONTH- ON (Staff of FMD center) Dr. SUNEEJIT KONGTHON (Staff of FMD center) Dr. VISES PRASERT (Coordinator) Dr. AMONG BINTAVIHOK (Staff of Coordi- nation) 以上 DLD	
	20:00 ~ 23:00 宿舎	Minutes 案作成		エバリュエーシ ョン調査団
7/24 (木)	7:00 ~ 10:00	小野寺、矢ヶ崎団員 バンコク-バクチョン移動		小野寺、矢ヶ崎 団員
	10:00 ~ 12:00	FMDセンター視察	FMDセンター職 員	
	12:30 ~ 15:00	バクチョン-バンケン移動		
	15:00 ~ 16:30	家畜衛生生産センター視察		
	16:30 ~ 17:30	バンケン-バンコク移動		

日 時	場 所	内 容	タイ側出席者	日本側出席者
		石崎団長、北中団員		石崎団長、北中団員
9:30 ~ 12:00	JICAタイ事務所	Minutes 案作成		
12:00 ~ 14:00	AKAMON レストラン	大使館とPHC第三国研修に関する打合せ		浦部参事官、高山一等書記官、三苦所員、石崎団長、北中団員
14:00 ~ 18:00	JICAタイ事務所	Minutes 最終チェック	Dr. VISES PRASERT (Coordinator)	石崎団長、北中団員
18:30 ~ 21:00	HILTON HOTEL "GENJI"	Minutes 署名 引き続き夕食会	Dr. TIM BHAN-NASIRI (Director General DLD) Dr. SUTHUM PUNYA-UPAPAT (Director of Vet. Biologies Div.) Dr. THINAKORN CHANDAKAEW (Chief of FMD Center) Dr. AB KONTHON (Staff of FMD center) Dr. SUNEEJIT KONGTHON (Staff of FMD center) Dr. VISES PRASERT (Coordinator) Dr. AMONG BINTAVIHOK (Staff of Coordination) 以上 DLD Mr. MANOP THANG-USAHA (Chief, Thai Aid)	三苦所員、伊藤長期調査員、エバリュエーション調査団

日 時	場 所	内 容	タイ側出席者	日本側出席者
7/25 (金)			Program) Mr. VARAVUD TOMN. (Technical officer, Thai Aid Progr- am) 以上DTEC	
	8:00 ~ 9:00 宿舎	TG 740 バンコクー成田 小野寺、矢ヶ崎団員帰国 PHCプロジェクト専門家 との日程打合せ		岩村リーダー、 鈴木調整員、甲 斐所員 コンタクトミッ ション
	9:00 ~ 11:00 スリラート大学	Dr. NATTH 表敬	Dr.NATTH (Rector, MAHID- OL Univ) Dr. KRASAE (Director, ATC/ PHC)	岩村リーダー、 鈴木調整員、甲 斐所員 コンタクトミッ ション
	10:00 ~ 12:00 マヒドール大学 サラヤキャンパス	ATC施設見学 プロジェクト専門家との業 務打合せ		岩村リーダー、 兵井専門家、鈴 木調整員、甲斐 所員、コンタク トミッション
	13:00 ~ 14:00 マヒドール大学 サラヤキャンパス	ATC/PHC活動状況ビデオ 「Health by the people」		コンタクトミッ ション
	14:00 ~ 16:00 マヒドール大学 サラヤキャンパス	PHC第三国研修にかかる大 学関係者との協議	Dr. KRASAE (Director, ATC/ PHC) (Deruty Director, ATC/PHC) Dr. ORAPIN (Assistant Direc- tor of Special Program Prof. LINDA	岩村リーダー、 兵井専門家、鈴 木調整員、コン タクトミッショ ン

日 時	場 所	内 容	タイ側出席者	日本側出席者
7/26 (土)	16:00 ~ 17:00 マヒドール大学 サラヤキャンパス	PHCプロジェクト専門家 との最終打合せ 総括	(Assistant Director of Information) 以上 ATC Mr. MANOP THANG-USAHA (Chief, Thai Aid Program) Mr. VARAVUD TOMON (Technical officer, Thai Aid Program) 以上 DTEC	岩村リーダー、 兵井専門家、鈴木調整員、コンタクトミッション
7/27 (日)		TG 740 バンコクー成田 石崎団長、北中団員帰国		

Ⅱ シンガポール 第三国研修

－ 港 湾 管 理 －

－ 港 湾 機 器 維 持 ・ 管 理 －

研 修 管 理 調 査 団 報 告

1. 研修管理調査団の派遣

1.1 派遣に至る経緯と目的

(1) 標記コースは、アセアン太平洋人造り緊急行動計画（APC-HRD緊急行動計画）の一環として、わが国の第三国研修計画に基づき、日・シ両政府の協力のもとに実施されたものである。

APC-HRD 緊急行動計画としては、一応1年限りで終了するが、次年度以降の扱いについては、初年度実施コースの評価結果及び予算等その他の条件を勘案し、日・シ双方が協議して決めることで「シ」側との間で事実上の了解が得られている。

(2) 以上の経緯を踏まえ、今回の調査団は次の2点を主な使命として派遣された。

イ 港湾管理コース及び港湾機器維持管理コース、両コースの終了に伴う評価調査を行うこと。

ロ 上記両コースの次年度以降の取扱いに関する「シ」側の意向を打診すること。

2. 研 修 計 画

2.1 経 緯

1985年7月にマレーシアで開催されたASEAN拡大外相会議において、緊急行動計画32件の実施が決定された。シンガポールを実施国とする案件5件のうち、既にポリテクニクで実施中の建設プロジェクト管理第三国研修を拡充して実施する予定の1案件を除く4案件①Port Management & Operation ②Port Engineering & Project Management(以上港湾分野コース) ③Airport Management ④Search & Rescue Mission Coordination(以上航空分野コース)に
関し、4案件の概要及びフレームワークを調査するための事前調査団が1985年10月17日から11月3日にかけて派遣された。その結果、4コースのうち②がManagement & Maintenance of Port Equipmentに変更された。その結果、4コースとも第三国研修を実施するに适当であることが判明し、さらに次の事項①研修コースの実施方式(「シ」側提案の既存コースへの受入れ方式か、わが方提案の特設コースの設置か)、②コース実施に係る事務の手續の日・シ双方間の分担等を詳細に協議し、R/Dに署名すべく実施協議調査団が1986年1月16日から1月26日に派遣された。協議の結果、研修実施方式については、「シ」側提案の既存コースへの受入れ(突っ込み方式)で行うこと、応募・受入回答等の手續きは「シ」国の二国間ベースのルートで進めること、割当国はASEAN及び南太平洋諸国(the ASEAN countries and the South Pacific Island states)とすること、又、コース実施・運営に係る日・シ双方の業務分担(詳細後記)につ

いては、概してアレンジは「シ」側で、費用の支払いはJICA事務所で行うこととした。

その他、日本人専門家については各コースに1、2名を派遣することで合意し、講義科目についても先方の了解をとりつけた。

以上、これらの事項を含むR/Dが、1月24日(金)に署名された。

2.2 研修計画

(1) 協議議事録(R/D)

別添資料 参照

(2) 実施要領

「シ」外務省が在外シンガポール大使館あて発出した Invitation Letter が4コースの実施計画書及びG.I.を兼ねることとなった。

別添資料 参照(別添資料は在タイ・シンガポール大使館あてレター)

2.3 実施機関

(1) PSAの概要

PSAは、1964年にシンガポール港湾庁法に基づいて、シンガポール政府から行政的・財政的に独立した組織である。

政策決定機関として政府及び民間企業の代表者から構成される経営委員会が設置されている。その下図-2に示すように8局50課があり、職員は約8,750名で、年々職員数は減少している。

PSAは港湾の計画、建設及び管理運営を行なっている。なおJurong 埠頭については港湾運営のみを行なっている。主な業務は、

- ① 港湾施設の計画、建設、維持及び管理
- ② 給水・給油・水先等の船舶サービス
- ③ 荷役・保管等の港運サービス
- ④ 航行援助・水録測量等の海上保安
- ⑤ 島嶼間のフェリーサービス
- ⑥ 警察及び消防
- ⑦ レクリエーション施設の建設管理

PSAの財務状況は荷役、船舶サービス等の港湾運営に伴う収入がS\$ 684百万で、支出がS\$ 393百万である。その他投資関連収入がS\$ 89百万であるためS\$ 330百万(約330億円)の黒字となっている。とくに収入の中ではコンテナ関連の収入が伸びており、全収入の約40%を占めている。PSAのように黒字経営となっている港湾管理組織は途上国港湾の中

では極めてまれな例である。

(2) P S Aにおける研修の概要

P S Aにおける研修は 1959年より実施されており、当初は荷役能率の向上を目的としたものであった。その後港湾における技術革新及び港湾活動の活発化に伴ない、港湾の管理運営、港湾技術及び関連技術に関する研修が逐次実施されるようになり、現在P S A職員に対して約600コースが設置されている。

途上国港湾関係者を対象とした有料の研修は 1975年に港湾管理運営コースが最初に開設された後漸次コース数が拡充された最近では13～14コースが設置されている。参加者はASEAN、西アジア、アフリカ地域より年間250人程度である。1986/87年の研修計画は港湾管理関係2コース、港湾運営関係2コース、港湾技術関係2コース、港湾安全関係5コースの計11コースが実施される予定である。各コースの研修期間は1～2週間で、参加料はS \$ 600～2,000である。

P S Aにおける担当部局は人事局研修課である。研修課は運営関連の研修を担当する運営研修係、技術関連の研修を担当する技術研修係、管理関連の研修を担当する管理研修係の3係より構成されており、講師40名を含んで計86名の職員である。

研修の実施方法については、概要案内(General Information)が毎年12月頃、各国及び各機関に配布され、研修員を募集している。研修におけるP S Aの役割は研修施設及び講師の準備等で、研修員の宿泊施設及び旅行の準備等は研修員自らが行なうこととされている。研修の課題及び内容は、研修課とP S Aの実務担当部局との調整によって決定され、講義録が2～3週間前に作成される。講義は通常月曜日から金曜日は午前9時から午後5時まで行なわれている。また、研修終了時に出席率75%以上の研修員には修了書が手交される。

3. 研 修 実 績

3.1 参加研修員

(1) 港湾管理コース

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
Brunei	Pengiran Hassanan Bin Pengiran Johari/Zahari Port Officer, Ports Department, Muara, Ministry of Communications Tel: 72220/72380	15 Nov '53	Male
	Mr Nordin Bin Buyong Port Supervisor, Ports Department Muara, Brunei Darussalam	27 Sep '49	Male
Indonesia	Ir Langas Denny Siahaan Head of Subdivision of Planning Arrangement for Long Term and Medium Term Planning, Bureau of Planning Jakarta - Pusat Tel: (021) 347025	27 Mar '52	Male
Malaysia	Mr. Sallehuddin Yusof Administrative Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	1 Sep '58	Male
	Mr. Hamdan Mohamad Senior Traffic Officer Jabatan Terafik Lembaga Pelabuhan Kelang 42005, Pelabuhan Kelang Selangor, Malaysia Tel: 387067	6 Nov '51	Male

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
	Mr Hamzah Bin Abdullah Security Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	30 Sep '49	Male
	Mr. Adnan Bin Abdullah Administrative Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia		Male
	Mr. Dahari Bin Ujud Training Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	5 Feb '51	Male
Philippines	Engineer Roberto Abada, Jr Assistant Chief, Terminal Operations North Harbour and Concurrent Chief Technical & Research, North Harbour PPA - Port of Manial PNR Building, South Harbour Port Area, Manila, Philippines Tel: 473441/262215	11 Apr '53	Male
	Mr. Raul S. Bernado Terminal Operations Officer III Philippines Ports Authority Port of Manila, South Harbour Port Area, Manila Tel: 473441/262215	3 Dec '48	Male
Singapore	Mr. Tan Lay Thok Commercial Officer Operations (Directorate), PSA	26 Mar '51	Male

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
Thailand	Mr. Chod Ketachat Chief, Cargo Section Sattahip Commercial Port Port Authority of Thailand Tel? (038)436344 - 64 Ext 432	1 Jul '35	Male
	LCDR Autthachut Konpean Navigator 6, Harbour Department Yotha Road, Talardnoi Samphanthawong Bangkok, 10100, Thailand	11 Oct '49	Male

(2) 港湾機器維持管理コース

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
Brunei	Ak Mohad Kipli Bin Pengiran Abdullah Mechanic, Ports Department Muara, Brunei Darussalam Tel: 72220/72380	16 Mar '57	Male
	Mr. Lai Bon Shim @Lai Bun Ching Plant Attendant, Ports Department Muara, Brunei Darussalam Tel: 72220/72380	20 Aug '57	Male
Philippines	Mr. Reynaldo A. Tuazon Port Engineer B Philippines Ports Authority Maintenance & Equipment Dept., 3rd Floor, 13F Condominium Advana, Intramuros, Manila, Philippines Tel: 26-65-88	9 May '40	Male
	Mr. Andres Candaroma Jr. Engineer B, Philippines Port Authority, Port of Manila, PNR Building South Harbour, Metro Manila, Philippines Tel: 47-34-41 to 49	8 Dec '52	Male

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
	Mr. Raymundo O Espiritu Training Officer B (Acting) Philippines Ports Authority PPTC Building, Gate 4, Port Area Manila, Philippines Tel: 49-66-63	31 Jan '44	Male
Malaysia	Mr. Mohamed Fozi Bin Ismail Technical Assistant Johore Port Authority 81707, Pasir Gudang Johore, Malaysia Tel: 915948	22 Nov '63	Male
Singapore	Mr. Khaw Wai Meng Principal Engineer (Mechanical) Electrical Engineering Dept., PSA	14 Jul '54	Male
	Mr. Wong Kow Chye Higher Technical Officer (Electrical) Electrical Engineering Dept., PSA	21 May '49	Male
Thailand	Mr. Nipon Buatoom Chief of Fork Lifts Section Port Authority of Thailand Bangkok, Thailand Tel: 249-0399 Ext 2517	25 Mar '37	Male
	Mr. Chalerm Saihomhuan Assistant Chief of Repair and Maintenance Section Port Authority of Thailand Klongtoey, Bangkok 10110, Thailand Tel: 249-0499 Ext 2522	8 May '41	Male

3.2 カリキュラム

PORT MANAGEMENT AND OPERATIONS COURSE

(30 JUNE - 11 JULY 1986)

TIME	MON, 30/6	TUE, 1/7	WED, 2/7	THU, 3/7	FRI, 4/7	MON, 7/7	TUE, 8/7	WED, 9/7	THU, 10/7	FRI, 11/7
0900 hrs	Registration & Briefing [Training Dept Officers]	Principles & Concept of Port Planning	Limitations of A Port Operator	Container Freight Station Operations	Conventional Ship Operations	Evaluation of Container & Cargo Handling Equipment	Financial Systems in The Port		P O R T	
1030 hrs	Group Photo-graph & TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA
1100 hrs	Multi-Vision Show [PR Officer]	Planning And Development of TPCT - A Case Study	Organisation Of Port Operations	Visit To TPCT	Organisation Of Labour For Conventional Operations	Warehousing Operations	Port Tariff Structure & Application		MANAGEMENT	
1130 pha	Harbour Cruise [PR Officer]									
1230 hrs	Welcome Buffet Lunch of WIC	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK	LUNCH BREAK
1400 hrs	Role & Significance of Ports	Japanese Experience In Port Development [JICA Expert]	Container Ship Operations [Mr. Fong Kum Hor Snr Trg Officer (Ops)]	Future Prospects Of Containerisation In Developing Countries [JICA Expert]	Port Performance Indicators [Mr. Fong Kum Hor Snr Trg Officer (Ops)]	Port Policing & Security	Computer Applications In The Port		G A M E	
1530 hrs	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA	TEA
1600 hrs	Navigation & Traffic Control	Japanese Experience In Port Development [JICA Expert]	Container Yard Operations [Mr. Fong Kum Hor Snr Trg Officer (Ops)]	Future Prospects Of Containerisation In Developing Countries [JICA Expert]	Role Of Customs In The Port [Customs Officer]	Fire Prevention & Pollution Control Measures	Marketing Of Port Services	[Mr. J. S. Menon, Mr. Fong Kum Hor, Mr. Lee Hee Huet, Mr. K. T. Huihew]	Course Evaluation	Certificate Presentation & Farewell Function
17-0 hrs										

MANAGEMENT AND MAINTENANCE OF PORT EQUIPMENT COURSE

(14 - 10 JULY 1986)

Time (Mrs)	Monday, 14 Jul 86	Tuesday, 15 Jul 86	Wednesday, 16 Jul 86	Thursday, 17 Jul 86	Friday, 18 Jul 86
0900 - 1030	Registration & Briefing Introduction to PSA & Audio Visual Show - Rep from Trg Dept (Mr. H. Mahendran)	Maintenance Appraisal & Information System - Rep from CTRD (Mr. Chan Chee Tack)	Future Trends of Port Equipment in Japan - Japanese Expert	Computerisation of Maintenance Data - Rep from DOD (Mr. Hong Kim Hong)	Incentive Scheme for Maintenance Personnel - Rep from CTED (Mr. Chan Chee Tack)
1030 - 1100	Tea	Tea	Tea	Tea	Tea
1100 - 1230	Workshop Maintenance Systems & Procedures - Rep from MED (Mr. S. Hoban)	Equipment Procurement & Performance Evaluation - Rep from CTED (Mr. Chan Chee Tack)	Future Trends of Maintenance Systems in Japan - Japanese Expert	Maintenance of Electrical Distribution Systems & Installations - Rep from EED (Mr Patrick L. Ag)	Training of Maintenance Personnel - Rep from Trg Dept (Mr. M. Mahendran)
1230 - 1400	Welcome Lunch	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Farewell Lunch
1400 - 1530	Management of Workshop Safety - Rep from IHS Dept (Mr. R. Segar)	Maintenance Systems of Container Handling Equipment - Rep from CTED (Mr. Chiang Wah Tuck)	Inventory Control Systems & Maintenance of Stores - Rep Michael Keong & Mrs T. Sivanandam	Management of Term Contracts - Rep from C & M Dept (Mr. Heng Fook Yang)	Panel Discussion Questions & Answers - Rep from MED, CTED & Supplies Depts & Japanese Experts
1530 - 1600	Tea	Tea	Tea	Tea	Tea
1600 - 1700	Short Visit to Central Workshop - Rep from MED & Trg Dept (Mr. Teo Kay Heng & Mr. M. Mahendran)	Short Visit to Container Terminal - Rep from CTED & Trg Dept (Mr. Chiang Wah Tuck & Mr. M. Mahendran)	Short Visit to Central Stores - Rep from SUPP (Mr. Michael Keong)	Short Visit to Keppel Wharves & Automated Warehouse - Rep from CTED (Mr. Chiang Wah Tuck)	Course Evaluation & Certificate Presentation - Director (Engng) & Trg Dept

3.3 使用教材

Port Management & Operations Course

1. Course Programme
2. Marketing of Port Services
3. Role & Significance of Ports
4. Navigation and Traffic Control
5. Principles and Concept of Port Planning
6. Planning & Development of TPCT - A - Case Study
7. Limitations of Liabilities as a Port Operator
8. Organisation of Port Operations
9. Container Ship Operations
10. Container Yard Operations
11. Container Freight Station Operations
12. Conventional Ship Operations
13. Organisation of Labour for Conventional Operations
14. Port Performance Indicators
15. The Role of Customs in the Port
16. Planned Maintenance of Wharf Equipment (Selection and Repair of Container Handling Equipment)
17. Warehousing Operations
18. Port Policing & Security
19. Fire Prevention in the Port
20. Fire Prevention and Oil Spill Control Operations
21. Port Tariff Structure & Application
22. Computer Applications in the Port
23. Japan's Experience in Port Development
24. Future Prospects of Containerisation in Developing Countries

Management & Maintenance of Port Equipment

1. Training of Maintenance Personnel
2. Incentive Scheme, for Maintenance Personnel
3. Maintenance of Stores
4. Equipment Procurement & Performance Evaluation
5. Maintenance Systems of Container Handling Equipment
6. Computerisation of Maintenance Data
7. Trend of Cargo Handling Equipment

3.4 日本の協力

(1) 「シ」側より提出された第三国研修実施経費申請書に基づき査定した結果、ほぼ申請額は妥当と認められ、港湾管理、港湾機器維持・管理コースに対し、各々6,036千円、3,940千円の示達を行なった。

(2) 専門家

港湾管理コース(2名)

① 井上聡史(港湾管理運営)

運輸省第二港湾建設局小名浜港工事事務所長

昭和61年6月29日～昭和61年7月4日

② 榊田秀樹(港湾管理運営)

日本郵船株式会社調査室調査一課長

昭和61年7月1日～昭和61年7月6日

港湾機器維持管理コース(1名)

① 奥出律(港湾機器維持・管理)

運輸省第四港湾建設局下関機械整備事務所長

昭和61年7月13日～昭和61年7月19日

4. 評価事項

4.1 調査・協議全体工程

- (1) 標記調査団一行は、14日(月)当地到着後、翌15日(火)当地外務省においてPSA Training Manager及びJICA事務所長等関係者の出席のもとに全体会議を行い、評価調査の方法及び日程等について打合せを行った。
- (2) 評価作業は、研修員より回収せるQuestionnaireの回答結果の分析を中心に、わが方調査団と「シ」側との共同作業によってとり進められ、PSA関係者、わが方派遣講師陣及び当地関係者のコメントも十分に参考しつつ、とりまとめられた。
- (3) 右調査の結果、両コースとも研修内容、実施方法及び運営・管理等全般にわたって良好な評価が得られ、所期の目的を達成したとの結論を得た。
- (4) 調査団は、右調査評価結果の要約を「シ」側との間で英文(Summary Report)にとりまとめ、Minutes of Discussionsの別添資料として添付することとした。

なお、本件2コースがAPC-HRD緊急行動計画の一環として実施されたことから「シ」側外務省の関心が高く、Minutesは外務次官の了承を取りつけたのちTANアセアン局長が署名し、石崎団長のカウンター署名を得るべく当事務所経由でJICA側に送付することとなった。

- (5) 一方、両コースに関する来年度以降の扱いぶりについて石崎団長が「シ」側の意向を非公式に打診したところ、標記コースが良好な評価結果が得られたことに鑑み、APC-HRD緊急行動計画が引き続き実施されるのであれば、「シ」側としては同計画のもとに継続実施したいとの感触が得られた。

なお、「シ」側外務省としては、第一義的にはAPC-HRD計画のもとに実施したいとの意向を有しつつも、万一同計画の延長が不成立に終わった場合は、PSAとJICAの間で合意が得られれば、通常の第三国研修ベースで継続実施することも想定し得るとの感触をのぞかせた。

4.2 評価方法

(1) 評価方法

- ① 評価は受益者である研修員の立場からみた評価をベースに、研修実施機関(PSA=シンガポール港湾庁)のコメント及びわが方派遣講師のコメントを参考としつつわが方でとりまとめ、これを最終的に「シ」側との間で確認する形式をとった。
- ② 調査に予めJICA研修事業部で作成したQuestionnaireをシンガポール事務所を通じて「シ」側外務省アセアン局及び本件研修実施機関にあたるPSA(シンガポール港湾庁)に送付し内容につき合意をとりつけたのち研修員に送付し回収した。

この結果港湾管理コース及び港湾機器維持管理コースとも全研修員より回収することがで

きた。

- ③ Questionnaireの回収結果を、項目毎に分析し、調査団としてのコメントを付した。この場合、PSAのTraining Manager(本コース総括責任者)及びコース担当者等との間で主な項目について詳細にわたり意見交換を行うと共に、この結果を評価のとりまとめの中で反映させた。

一方、PSAも研修実施機関としての立場から、わが方の内容に類似したアンケート(別添参考)を研修員に手交し回収していることから、とりまとめにあたっては、一応わが方のQuestionnaireの分析結果を中心としつつも、PSAの調査結果も充分考慮にいれつつ作業を進めた。なお、「港湾機器維持管理コース」については、調査団が直接全研修員にインタビューしフランクなコメントを求めたが、これは評価結果をまとめる上で役立った。

(2) 文書作成

- ① 以上の作成を通じて得られた結果を先づわが方調査団がとりまとめこれをMr. Menon等PSA側関係者と一節毎に吟味し内容、表記ぶりについて詳細に検討を重ね最終案を得た。右案は7/17(金)午後「シ」側外務省にて行われた全体会議で検討され、Minutes of Discussionsに添付されることとなった。

席上TAN局長より特に発言があり、「今回の調査はアンケート等具体的な数値に裏打ちされた科学的な方法を駆使して行われ、「シ」側にとってもコロシボプラン及びアセアンフェローシップ等で受入れる研修の評価のため当方の持参したQuestionnaire様式を参考としたい。」旨述べるところがあった。

- ②イ) なお、Minutes of Discussionsの内容についても一応両者間で合意をみせたが、両方より「シ」側に次年度以降の本件コースの取扱いぶりについて確認し、これを文章の後段に加える旨述べたところTAN局長は「シ」側としては、APC-HRD緊急行動計画そのものの実施を基本的に望んでおり、かつ今回の調査の結果、両コースが良好な評価結果が得られたことに鑑み、次年度も同計画のもとで是非継続されることを切望する旨述べた。

ロ) TAN局長は、具体的な文章の表現については、以上のような「シ」側の切望にもかかわらず、APC-HRD緊急行動計画の継続問題については、関係者の間で、未だ公的には確認されていない現状に鑑み、次の一節を提案越した。

The Japan/Singapore evaluation teams felt that the appropriate authorities might wish to examine the possibility of having the course repeated for one more year under the same arrangement.

ハ) 右提案に対し、APC-HRD緊急行動計画そのものがわが方の政策マターでもあり、また同計画の継続内容については、「シ」側も指摘しているように、関係者間で確認されないこともあり、外務省の意向を確認したところ、結局表記は案文から削除することとした。

- ③ 以上を経て Minutes of Discussions の内容については、「シ」側外務省との間で同意に達したが、「シ」側外務省としては、本件計画について「シ側」としても重要視しており、サインする前に外務次官の了解をとりつけ、のちに TAN 局長がサインし、わが方団長のカウンターサインをうるべく日本側に送付したい旨説明があり、わが方もこれを了承した。
- ④ 調査団帰国後、8月18日に TAN 局長のサイン済 Minutes of Discussions が2部送付され、石崎課長がカウンターサインをした後、1部を「シ」側に返送した。

4.3 コース評価

A 港湾管理コース

(1) コース目的

コース目的の認識度合についてはあまりよく知らなかった者が15%いたものの一応知っていた者は85%おり、またコース目的の達成度合及びコースに対する期待感の達成度合についてはそれぞれ全員が達成されたと解答しているので満足する結果であると思われる。

(2) カリキュラムデザイン

- ① 科目の範囲については少々広いあるいは広すぎると答えたものが23%いるものの77%が適当と答えており、ほぼ妥当であったと思われる。

本コースが中堅管理者クラスに対する管理運営の全体知識の修得を目的としているため、科目の範囲が広いという印象を与えたのはやもう得ないと考える。なお、広いと答えた三者のうち少なくとも2名は港湾現場管理等限定された業務に従事しているものであるところから当然のコメントであると思われる。

- ② レベルについては54%が適当と答えているものの高いと答えた者が46%いるところ若干高めであったと思われる。

参加者の大半は本コースの内容を十分フォローできるレベルの中堅管理者であったと考えられるが、一部の参加者にとってはある科目については担当業務以外の範囲で関心が低かったことからレベルが高かったと感じられたものと思われる。

- ③ 講義の時間配分については過半数のものが適当と答えているものの、多いと答えている者が30%おり、やや多めであったと思われる。

- ④ 討議の時間配分については適当、やや多い、やや少ないと答えた者がほぼ均等に分れた。

- ⑤ 研修員の参加度合と見学の時間配分については半数近くの者が適当と答えているものの、少ないと答えたものが40%おり、若干少なめであったと思われる。

全体のコース期間の問題もあるが、総じて研修員自らが参加できるプログラムたとえば見学、実習、討議についての時間配分をふやしてほしいとの要望が強い。

- ⑥ 密度についてはややハードと答えた者が15%いるものの85%のものが適当と答えて

おり適当と思われる。

- ⑦ 期間については69%が適当と答えているものの講義内容が浅かったり、ディスカッションの時間が不足していたなどの理由により短いと答えている者が23%おり、若干短かめであったと思われる。
- ⑧ 解答者はほぼ全員がトピックスは系統的に組まれていると答えている。
- ⑨ トピックスがシンガポール港のようにコンテナ化の進んだ状況を対象にしているが、参加国におけるコンテナ貨物の問題以外に在来貨物を対象としたトピックスをも含めることが有益であるとの意見がある。
- ⑩ 特に注目をあびたトピックスは“Port Management Game”, “Marketing of Port Services”であった。一方、あまり人気のなかったトピックスは“Role of Customs in the Port”, “Future Prospects of Containerization in Developing Countries”であった。

(3) コースの実施

- ① 総合的にみてほぼ全員が満足すべき評価を与えているが、教材の事前配布等の諸工夫をすべきとの意見があった。
- ② 全員が研修で得た技術と知識を帰国後活用できると答えており、有益な研修であったと判断できる。

(4) コースの運営管理

コースの運営管理についてはコーディネーション、事前のインフォメーション(GI)、宿舎、食事、アローワンス、交通手段、研修員間のコミュニケーション等には問題は無く非常によく運営されたと判断される。

但し、厚生活動についてはまずかったと答えているものが34%あった。また研修旅行のアレンジについては85%が良かったと答えているものの15%の者がまずかったと答えている。

(5) 研修結果

全員が成果が得られたと解答しており、満足すべき結果であると思われる。

B 港湾機器維持・管理コース

(1) コース目的

コース目的の達成度合については全員が達成されたと解答しているので満足する結果であると思われる。

(2) カリキュラムデザイン

- ① 大半の者が科目の範囲、レベルについては適当であったと解答しているも、一部の者にとっては科目の範囲が広すぎると印象を与えた。これは参加研修員の業務が再分化されていることから当然のコメントであると思われる。

② 大半の者が講義の時間配分は適当と答えているものの講義時間を増やすべきであるという意見もあった。

研修員の参加度合と見学の時間配分については大半の者がおおむね適当と答えている。

③ 密度については適当と答えた者とややハードと答えた者が約半数いた。80%の研修員が期間が短いと解答している。各研修員に対するインタビューの結果も同様であった。

④ 特に注目をあびたトピックス及びあまり人気のなかったトピックスは研修員の間で各人各様であった。

(3) コースの実施

① はば全員が満足すべき評価を与えている。

② 全員が研修で得た技術と知識を帰国後活用できると答えており、有益な研修であったと判断できる。

(4) コースの運営管理

コースの運営管理についてはコーディネーション、事前のインフォメーション(GI)、宿舎、食事、アローワンス、交通手段、研修員間のコミュニケーション等に問題は無く非常によく運営されたと判断される。但し、厚生活動についてはまずかったと答えているものが若干あった。

(5) 研修結果

90%が成果が得られたと解答しており、満足すべき結果であると思われる。

4.4 日本の協力

(1) 専門家

日本の協力方法の一つとして、研修の講師として3人の専門家が派遣されたが、この専門家派遣の評価として、講義テーマのとりあげ方、講義の内容、講義の仕方など、研修参加者への質問表の解答、PSA研修担当官、専門家自身、それに評価ミッションの意見を総合し、次に示した。

① 港湾管理運営コースへの協力

「港湾開発における日本の経験」というテーマで取り上げられた日本の港湾開発の歴史、日本の港湾整備のシステム、港湾の地域開発に果たす役割などの課題は、今日の日本の経済社会発展の原動力となった。港湾開発の理念を紹介するもので、発展途上国の今後の発展のため必ずや何らかのヒントを与えるものとして有意義なテーマである。

このことは、研修参加者の人気のあるトピックスとして第3位挙げられていることから分る。

しかし、今回の研修では、与えられた講義時間が短かったことと、研修参加者のレベル

が中堅管理職クラスであったとは言え、講義の内容が若干消化できない面があったようである。

講師の意図とする講義内容からすれば、望ましい研修対象者としては、今回のような特定の港の管理運営部門の担当者でなくて、港湾の開発計画担当者や全国レベルでの港湾管理運営を担当するような更に上のレベルの層に適合したものであったと思われる。

従って、今後、今回と同じレベルの研修員を対象とするならば、講義に
イ 日本の港湾の概観を中心に講義を行い、その中で日本の港湾システム、開発理念を紹介するという手法を用いる。

ロ 各国の港湾管理システムとの比較を行いながら日本のシステムの特徴を紹介する。(但し、この場合は、各国の港湾管理システムについての別途調査を盛り込むことができれば更に研修効果が高まるものとする。

「発展途上国におけるコンテナ化の将来展望」というテーマは、非常に難しい課題があるが、今後の港湾整備、管理運営の方策を検討する場合に不可欠の課題である。

講師が特定の船会社出身者であったが、講義の内容は市広い知識でもって、世界のコンテナ船の大型化やその就職状況及び今後の傾向、将来の運送革新や情報化に対応し、又船社の意向に合った港湾、コンテナターミナルのあり方などについて言及した示唆に富んだ内容になっている。しかし、この講義に対する研修参加者の評価は大きく分れており、人気のない課題として第2位にある一方、人気のある課題としての第5位にも挙げられている。これは、大部分の研修参加者の所属する港ではコンテナ化が余り進んでおらず、問題意識が薄いことや、又、一方講義の仕方に視聴覚機器類を使うなどの工夫が足らなかったことから、研修参加者の関心を十分に引きつけることができなかった結果であると想像される。

このテーマは、P S A側の講義では取り扱っていない内容でP S Aから日本の専門家に期待されていることから、今後、プレゼンテーションの工夫が行なわれれば、さらに日本から協力すべき有意義なテーマである。

② 港湾機器維持管理コース

「港湾機器の将来動向」及び「日本における港湾機器維持管理技術の現状と将来動向」のテーマは、本コースの他の講義テーマと比べると、他のテーマが事務的な傾向が強いのに比較して、直接実務につながらない理論的、知識拡大的な内容となった。

従って、本コースの参加者のレベルからみれば若干、関心事とは加離があったようである。このことは、研修参加者が講義中にケーススタディなど具体的な話しや、メンテナンスの考え方についての話しに興味を示し、港湾荷役をとりまく世界情勢の分析などについては興味を示さなかったことから分る。

今回実施した講義の内容からすれば、むしろ、港湾管理運営コースに参加した中堅管理者

層に適すると言える。

本コースでの講義を続けるとすれば、実務的な内容に焦点を当て、機器のスペック等のハードな話し、機器の計画、設計、具体的なメンテナンス基準についての話しを加えることが望ましい。

5. 関係者の評価

5.1 研修員による評価

A 港湾管理コース

(1) コース目的

① コース目的の認識度合

完全に知っていたと答えた者	15%
ほぼ完全に知っていた "	23%
一応知っていた "	47%
あまりよく知らなかった "	15%

② コース目的の達成度合

完全に達成されたと答えた者	15%
ほぼ達成された "	77%
一応達成された "	8%

③ コースに対する期待感の達成度合

完全に達成されたと答えた者	15%
ほぼ達成された "	70%
一応達成された "	15%

(2) カリキュラムデザイン

① 科目の範囲・レベル・時間配分・密度・期間

イ 科目の範囲

適当と答えた者	77%
少々広い "	15%
広すぎる "	8%

ロ レベル

適当と答えた者	54%
少々高い "	38%
高すぎる "	8%

ハ 時間配分

講義

適当と答えた者	55%
やや少ない "	15%
やや多い "	15%

多すぎると答えた者	15%
討 義	
适当と答えた者	38%
やや少ない "	31%
やや多い "	31%
研修員の参加度合	
适当と答えた者	46%
やや少ない "	48%
やや多い "	8%
多すぎる "	8%
見 学	
适当と答えた者	46%
やや少ない "	31%
やや多い "	15%
少なすぎる "	8%
ニ 密 度	
适当と答えた者	85%
ややハード "	15%
ホ 期 間	
适当と答えた者	69%
やや短い "	28%
やや長い "	8%

(3) コースの実施

① 教授方法

講義の進め方

傑出していると答えた者	17%
非常に良い "	51%
良い "	30%
まずい "	1%
非常にまずい "	1%

講師の語学力

傑出していると答えた者	20%
非常に良い "	60%

良いと答えた者	18%
まずい	2%
研修員の参加度合	
傑出していると答えた者	16%
非常に良い	48%
良い	32%
まずい	3%
非常にまずい	1%
研修教材の質と量	
傑出していると答えた者	14%
非常に良い	49%
良い	37%
研修施設の質と量	
傑出していると答えた者	16%
非常に良い	54%
良い	30%
総合評価	
傑出していたと答えた者	15%
非常に良い	61%
良い	23%
まずい	1%
② 修得技術・知識の活用	
非常に役に立つと答えた者	8%
役に立つ	61%
一応役に立つ	31%
(4) コースの運営管理	
① コースの実施上のコーディネーション	
傑出していると答えた者	8%
非常に良い	84%
良い	8%
② 事前のインフォメーション	
非常に良いと答えた者	62%
良い	38%

③ 研修旅行のアレンジ		
非常に良いと答えた者		46 %
良い	"	39 %
まずい	"	15 %
④ 宿舎・食事		
傑出していると答えた者		25 %
非常に良い	"	67 %
良い	"	8 %
⑤ アローワンスの額		
やや多いと答えた者		25 %
適当	"	67 %
やや少ない	"	8 %
⑥ 交通手段		
大変良いと答えた者		25 %
良い	"	58 %
やや良い	"	17 %
⑦ 厚生活動		
大変良いと答えた者		33 %
良い	"	33 %
まずい	"	9 %
非常にまずい	"	25 %
⑧ 研修員間のコミュニケーション		
傑出していると答えた者		8 %
大変良い	"	61 %
良い	"	31 %
(5) 研修結果		
非常に成果があったと答えた者		8 %
成果があった	"	69 %
一応成果があった	"	23 %
B 港湾機器維持・管理コース		
(1) コース目的		
① コース目的の認識度合		
完全に知っていたと答えた者		40 %

ほぼ完全に知っていたと答えた者	30%
一応知っていた "	20%
あまりよく知らなかった "	10%
② コース目的の達成度合	
完全に達成されたと答えた者	10%
ほぼ達成された "	50%
一応達成された "	40%
③ コースに対する期待感の達成度合	
ほぼ達成されたと答えた者	60%
一応達成された "	40%
(2) カリキュラムデザイン	
① 科目の範囲・レベル・時間配分・密度・期間	
イ 科目の範囲	70%
適当と答えた者	20%
少々広い "	10%
少々狭い "	
ロ レベル	70%
適当と答えた者	20%
少々高い "	10%
高すぎる "	
ハ 時間配分	
講義	45%
適当と答えた者	
やや少ない "	33%
少なすぎる "	22%
討議	
適当と答えた者	78%
やや少ない "	11%
少なすぎる "	11%
研修員の参加度合	
適当と答えた者	66%
やや多い "	17%
少なすぎる "	17%

見 学		
适当と答えた者		56 %
やや少ない "		22 %
やや多い "		11 %
多すぎる "		11 %
ニ 密 度		
适当と答えた者		44 %
ややハード "		44 %
やや楽であったと答えた者		12 %
ホ 期 間		
适当と答えた者		67 %
やや短い "		33 %
(3) コースの実施		
① 教授方法		
講義の進め方		
傑出していると答えた者		16 %
非常に良い "		62 %
良い "		22 %
講師の語学力		
非常に良いと答えた者		61 %
良い "		36 %
まずい "		3 %
研修員の参加度合		
傑出していると答えた者		14 %
非常に良い "		28 %
良い "		55 %
まずい "		3 %
研修教材の質と量		
傑出していると答えた者		12 %
非常に良い "		30 %
良い "		58 %
研修施設の質と量		
傑出していると答えた者		19 %

非常に良いと答えた者	37%
良い "	44%
総合評価	
傑出していたと答えた者	9%
非常に良い "	49%
良い "	42%
② 修得技術・知識の活用	
非常に役立つと答えた者	10%
役に立つ "	50%
一応役に立つ "	
(4) コースの運営管理	
① コース実施上のコーディネーション	
傑出していると答えた者	20%
非常に良い "	20%
良い "	60%
② 事前のインフォメーション	
傑出していると答えた者	22%
非常に良い "	22%
良い "	56%
③ 研修旅行のアレンジ	
傑出していると答えた者	20%
非常に良い "	30%
良い "	50%
④ 宿舎・食事	
傑出していると答えた者	22%
非常に良い "	33%
良い "	45%
⑤ アローワンスの額	
適当と答えた者	100%
⑥ 交通手段	
大変良いと答えた者	22%
良い "	33%
やや良い "	45%

⑦ 厚生活動		
大変良いと答えた者		38 %
良い "		50 %
まずい "		12 %
⑧ 研修員間のコミュニケーション		
大変良いと答えた者		40 %
良い "		50 %
(5) 研修結果 "		
成果があったと答えた者		50 %
一応成果があった "		40 %
あまり成果がなかった"		10 %

5.2 実施機関による評価

PSAも実施機関として別添のエバリュエーションシートを各コースの終了時に研修員に配布・回収し、その結果を整理・分析し、研修目標が達成されたか、また研修が効果的に実施されたか等、自己評価を行っている。

PSAによる港湾管理コースの集計結果は調査団が行った結果とはほぼ同様の傾向を示したが、調査団派遣時期がコース終了直後であったため、集計結果の分析までには至っていない。また、港湾機器維持・管理コースについてもコース終了直前であったため、エバリュエーションシートの集計・分析は行われなかった。

5.3 専門家による評価

第三国研修の講師として、港湾管理運営コースに2人、港湾機器維持管理コースに1人の専門家が派遣され、それぞれ次に示すテーマで講義を行った。

港湾管理運営コース

井上聡史（運輸省第2港湾建設局小名浜港工事事務所長）

「日本の港湾開発の経験」

栢田秀樹（日本船舶㈱調査室）

「発展途上国におけるコンテナ化の将来展望」

港湾機器維持管理コース

奥出律（運輸省第4港湾建設局下関機械整備事務所長）

「港湾機器の将来動向」

「日本における港湾機器維持管理技術の現状と将来動向」

「パネルディスカッション」

それぞれの専門家が講義や、研修員とのディスカッション、又PSAの研修担当者との話し合いを通じて得た感想を、専門家からの意見聴取、報告書を基にまとめたものが以下の通りである。

(1) 港湾管理運営コースについて

井上専門家による評価

① 講義内容の妥当性

若干の質問もあったが講義内容が難しかった感がある。

今回の講義で意図したように、単に日本の港湾開発の現状を示すだけでなく、港湾政策論ならびにその背後にある哲学を理解してもらうためには、日本の地域開発の仕組みや、世界の港湾の様子などと比較した講義が必要である。

② 研修効果目的の達成度

我国の港湾開発の考え方、制度は、西欧諸国のそれと大きく異なるため、これを理解してもらうには時間と参加者の高い関心が必要であるが、研修員のレベルや関心度が不明であり、又それを把握するための時間的余裕もないため、一方通行の研修になった。

これを効果的にするには、もっと時間をかけて、参加者の国の様子を発表しながら進めていく必要がある。

③ 今後の対応、提言

地の利また施設やカウンターパートのレベルからみて、PSAでの第三国研修は有意義、有効であるので、内容を更に検討し今後も継続するべきである。

日本側の講義を研修全体の中で一本化するには、PSA側の講義内容を正確に把握し、それらとバランスをとる必要がある。さもなければ別に日本だけのプログラムを立てた方がよい。

港湾管理一般という非常に広い範囲を対象とする研修では、参加する研修員のレベル、関心分野も多様であり、今回の講義の中心である日本の港湾政策や開発経験について理解を得るのは困難かも知れない。

樹田専門家による評価

① 講義内容の妥当性

世界のコンテナ化の動向や船社や荷主の要望などの基本的な事実認識をもつことがサービスを提供する港湾管理者にとって必要であり、又それがそれぞれの港湾の繁栄につながるの見地から講義を組み立てた。

従って、内容は巾広い話題で、一般教養科目的なものにならざるを得なかった。

② 研修効果、目的の達成度

港湾やターミナルの企画運営は、その国の経済貿易構造や、港湾の固有の地理、地政的要

因を離れて論ずることはできないが、今回の講義が一般論であったので、各研修参加者の経験や置かれてきた環境を踏えた理解に委ねざるを得なかったため、具体的成果として特筆するものはない。

③ 今後の対応、提言

研修参加者のバックグラウンド、レベル、興味の対象などが非常に多様であるため、話題の焦点をどこに絞るかが非常に難しいが、今回のような一般教養的な内容にならざるを得ない。

さらに改善するとすれば、コンテナ化の進展段階に従って、それぞれの段階における問題、対応の事例を示すことができれば望ましい。

(2) 港湾機器維持管理コース

奥出専門家による評価

① 講義内容の妥当性

研修期間が1週間で1つの講義について1.5時間と短いために、講義内容は概要にならざるを得ない。

研修参加者は、それぞれの国や港の水準、専門分野、業務内容、権限など、非常に異なった背景を持っているのと、又、どちらかと言えば現場関係の者であったので、単なる講義よりもケーススタディに興味があるようである。

したがって、「港湾荷役をとりまく世界情勢」と言った話題に興味はなく、荷役機器についての機種性能、自動化など技術的内容やメンテナンスに関する概論など、実務的な話題に興味を示した。

② 研修効果、目的の達成度

研修全般について、期間が短かくて概論的であるとの感が強い。しかし、最後のパネルディスカッションでの質疑応答で、研修員の関心事項も取り上げることができ効果的である。

③ 今後の対応、提言

研修参加者のレベル、職種分野から判断してもう少し、機器の技術的な問題を詳しくするなど実務的な内容を付加し、実習或いは演習を加えることが目的達成に有効であると考えられる。このため、研修期間は2週間程度にする必要があるか又、コースを複数に分化することも考えられる。研修員の英語力を補てんし、関心をより引くように、視聴覚機器を出来るだけ活用することが望まれる。

6. 総合評価

6.1 港湾管理コース

- (1) コース目的、研修内容、実施方法、研修の有益性、運営管理等コース全般にわたって研修員、研修実施期間(PSA)及び日本人講師等関係者より高い評価が得られ、総合的に判断し、本コースは成功であったと思われる。
- (2) 但し、次回以降のコース改善のため、以下の諸点の検討が望まれる。
 - ① 討議、実習、見学など研修員によるコースプログラムへの直接参加をより一層高めること。
 - ② カリキュラムの設定にあたり、コンテナ貨物扱い業務に重点は置きつつも、これと併行して在来貨物扱い業務(Conventional cargo handling system)についてもとりあげることが望ましいと思われる。
 - ③ 研修参加者のバックグラウンドの多様性を考慮し、若干のコース期間の延長が可能であれば、コースの一部を参加者の関心事を考慮し、グループ化することも考えられる。PSAコースの講師陣はPSAの現業(ライン)に従事しているスタッフを中心に編成されていることもあり、原則として2週間以上のコース実施は本来業務に差しつかえが生じかねないとしてとりあつかえないのが現状である。
 - ④ 南太平洋地域の割当国からの応募がなかったことから、これらの国から参加が得られるよう関係機関のより一層の努力が望まれる。

6.2 港湾機器維持管理コース

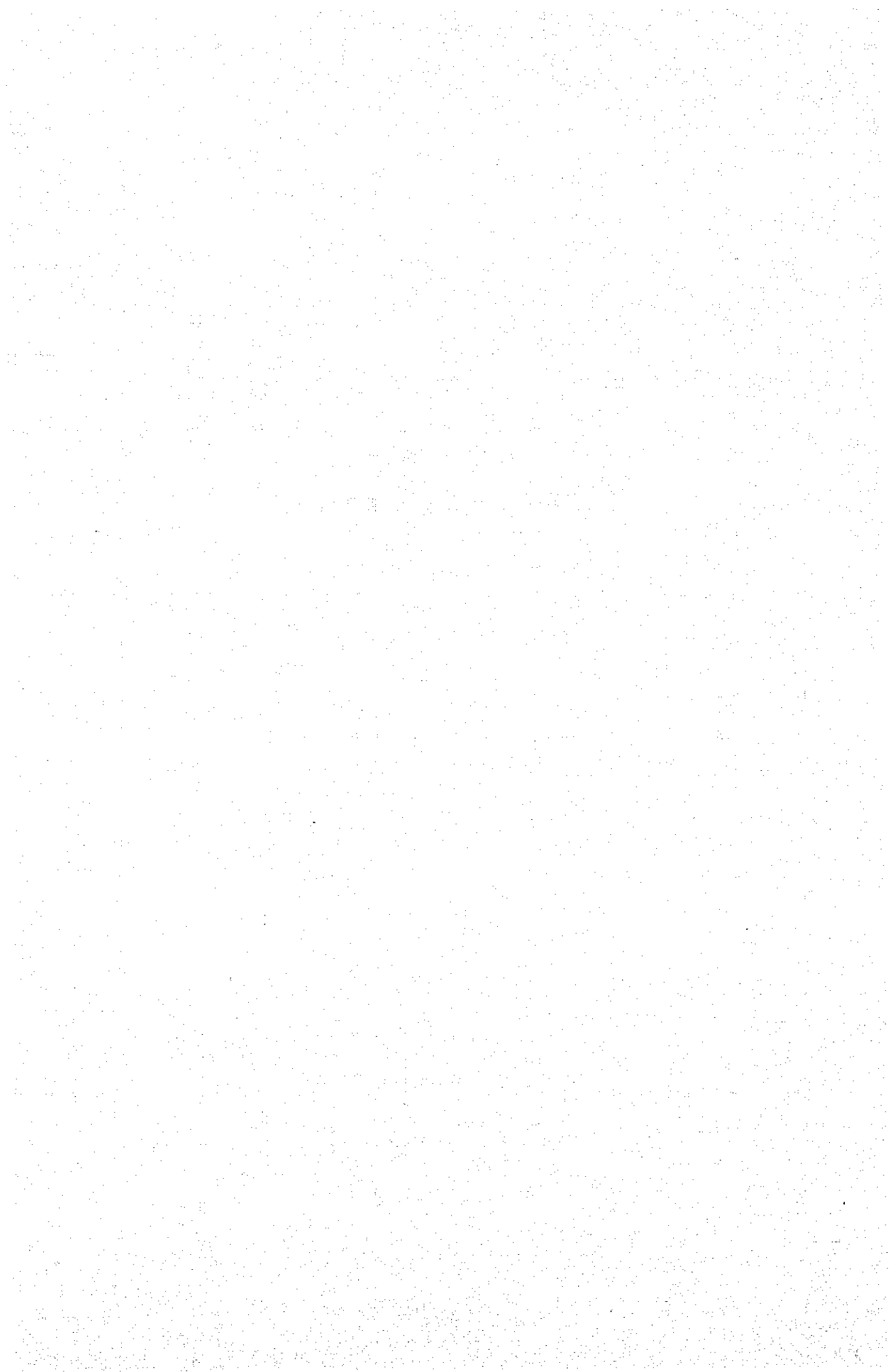
- (1) コース目的の認識、期待感の達成度合、コース実施、コース運営及び研修成果については、研修員の全員が「満足」の意を表明しており、本コースは、総じてコース目的を達成し、成功であったと考えられる。
- (2) 但し、カリキュラムデザインについては、参加者の所掌業務分野が細分化しているため、興味の対象が多様であり、このため科目レベル等について研修員間で意見が分かれたことはやむを得ないと思われる。
- (3) 仮りに本コースをレギュラーコースとして継続実施する場合、研修参加者の専門領域が多様化しているので、科目は現状のまますえおくにしても、研修期間を若干延長し、この部分を専門領域毎にグループ分けするなどの工夫をほどこすことが考えられる。

また、本コースの性格からみて、若干の現場研修を組み入れることにより、更に研修効果が高められるのではないかとと思われる。

Ⅲ タイ 第三国 研修

口蹄疫防疫

エバリュエーション調査団報告



1. エバリュエーション調査団の派遣

1.1 派遣に至る経緯と目的

口蹄疫防疫第三国研修の終了については、日・タイ両国の関係者の間で内々に同様の認識となっていたが、先方政府関係者と5年間にわたる第三国研修全般の総合評価を行ない、もって同第三国研修の終了について合意することを目的とし調査団が派遣された。

1.2 評価の方法

帰国研修員に対するクエスチョネアの分析結果を基に、コースレポート、専門家報告書、実施機関のエバリュエーションレポート等を参考にしつつ評価を行ない、合同エバリュエーションにおいてわが方評価結果を確認した。

2. 研修概要と実績

2.1 経緯

東南アジアにおいては、その風土から家畜衛生対策が重要な課題となっているが、特に牛、豚の口蹄疫は大きな問題となっており、この防疫対策には各国も大きな関心をよせている。

このような背景から日本が昭和51年度からセンター方式技術協力を実施している。タイ口蹄疫センターでの成果を土台に本センターを東南アジア域内の拠点として口蹄疫に関する防疫知識の普及、域内各国における効果的な防疫システムの確立、域内での協力体制の強化に寄与することを目的として、昭和56年11月19日の日本・タイ政府間の合意(R/D)に基づき実施されることになったものである。

2.2 研修計画

本コースは昭和56年度よりタイ畜産開発局において開始し、これまで5回実施されている。初回はセミナー方式による集団研修のみであったが57年度より個別研修(5カ月)と集団研修(3週間)の二本立てとなり、個別研修に参加した研修員は終了後集団研修に参加する仕組みとなっている。

別添R/D、研修計画書参照

2.3 実施機関

別添資料参照

(1) 組織図

別添資料参照

(2) 研修指導体制

別添資料参照

(3) 研修運営の体制

① G.I.の送付

より多くの研修員の参加を募るべく以下のチャンネルを通してG.I.が送付された。

イ. JICAタイ事務所 → JICA在外事務所

ロ. タイ畜産開発局 → 各国畜産局

ハ. タイ畜産開発局 → 帰国研修員

ニ. DTEC → 外務省 → 各国タイ大使館

② 運営管理

タイ畜産開発局は局内にJICA、DTEC、畜産開発局の三者から成る事務局（Organising Committee）を設け2コースの企画運営にあたっており、日本人専門家の助言のもとに（プロジェクト協力派遣専門家及び第三国研修派遣専門家）かなりの講義数及び実習の指導をタイ畜産局スタッフにより実施してきた。事務局（Organising Committee）の下には6つの作業部会が設置された。

A. Conference room, accomodation and field trip

B. Coordination

C. Training

D. Finance

E. Preparation of document

F. Secretary

個別研修はバクチョンの口蹄疫ワクチン製造センターで実施され、集団研修はバンコック市内のホテルの会場を借りて実施されてきた。

③ 予算措置

本コースの実施運営にかけるタイ側の熱意には目をみるものがあり、力量もかなりのものであったが、コース実施にあたって人材面、経費面（ローカルコストの不足を補なう）を含めて日本側のプロジェクト協力に負うところが大きかった。また、コース開始時にDTECの関与がなかったため、タイ側の負担する予算（ローカルコスト）はタイ畜産局が大蔵省に申請して得ていたものである。

第3回研修コース(58年度)タイ側負担経費

ローカルコスト内訳(聞きとり調査にて)

※

(タイFY 84
83年10月~84年9月)

฿ 348,400 / -

① Perdiem ฿ 268,200 / -

準備期間の人件費

(宿泊、交通費含む)

② ワーカーへの超過勤務給与

฿ 11,300 / -

③ 府報活動

฿ 2,900 / -

④ ラボ等実験資機材

฿ 66,000 / -

※ タイ畜産局(DLD)が大蔵省に申請

2.4 研修員受入実績

5年間にわたり、アジア地域の13ヶ国より85名(個別研修19名、集団研修66名)の参加があった。(別添資料参照)

2.5 日本の協力実績

(1) 経費

本コースはプロジェクト方式技術協力(タイ国家畜衛生改善計画 昭和52年3月2日~61年3月1日)の枠内での研修として開始されたため、R/Dの作成、署名時にもDTEC(タイ技術経済協力局)はほとんど関係しておらず、そのため、経費については日本側がほぼ全額負担してきた。(なお、その後経費面を除いてDTECとの協力関係は改善された。)

	第三国研修実施経費 (千円)	単独機材供与 (千円)
1981年	6,779	—
1982年	18,321	35,971 (ビデオシステム一式, 温度調節装置, 臨温水槽)
1983年	15,677	—
1984年	19,522	—
1985年	12,854	—
小計	68,153	35,971
合計	104,124	

(2) 専門家派遣及びカウンターパート受入れ

	派遣専門家	カウンターパート受入れ
56年度	2名 (1982.2.22~3.6) 態谷哲夫(東京農工大学農学部教授) (1982.2.21~3.20) 信藤謙蔵(全国農業協同組合連合会畜産生産部技術主管)	—
57年度	2名 (1982.12.3~1983.2.2) 杉村崇明(農林水産省家畜衛生試験場海外病部診断研究室長) (1983.3.11~3.26) 倉田一明(農林水産省動物医薬品検査所ウイルス製剤第一検査室長)	2名 Mr. SUTHUM PUNYAUPAPAT 視察 1982.8.22~9.12, 口蹄疫研究所所長(CHIEF OF FOOT AND MOUTH DISEASE LABORATORY) Mr. VISES PRASERT 視察 1982.8.22~7.12, 畜産局渉外担当(INTERNATIONAL COORDINATOR DEPT. OF UVESTOCK DEVELOPMENT)
58年度	2名 (1983.12.6~1984.3.5) 高取一郎(農林水産省家畜衛生試験場予防疫学研究室長) (1984.2.5~1984.2.24) 清水悠紀臣(農林水産省家畜衛生試験場企画連絡室長)	1名 Mr. WORARFT WONGSAREE 視察 1983.9.18~9.30 経済技術協力局(DTEC)タイ援助プロジェクト課長
59年度	1名 稲葉右二(農林水産省家畜衛生試験場研究第2部ウイルス第1研究室長) (1984.12.20~1985.3.16)	1名 Dr. PINIT SUPHVILAI 視察 1984.11.5~11.17 タイ農業協同組合省畜産局次長
60年度	1名 高取一郎(農林水産省家畜衛生試験場海外病研究部免疫研究室長) (1986.2.3~2.23)	—

3. 評価活動の実績

3.1 各種評価の結果とその内容

東南アジアの家畜衛生改善上、重要な疾病である口蹄疫について、東南アジア各国における効果的な防除システムの確立、東南アジア域内の協力体制の強化に寄与するため、昭和56年度からタイ国を拠点国とする口蹄疫防疫に関する第三国研修が実施されてきた。

この研修の終了に当たって最終的評価を的確に実施するため、各種報告書を要約し、その内容について分析を行ったので、その結果について報告する。

(1) 研修参加の必要性についての評価

タイ第三国研修に参加を呼びかけられた国は15カ国であるが、そのうち、中国、ラオスを除く13カ国から参加があった。

参加各国の本研修への参加の必要性について明らかにするため、本研修の参加各国における口蹄疫事情についての報告をとりまとめたカントリーレポートから、各国における口蹄疫の発生状況、防疫状況等を要約し、その内容について分析を行った。

各国における口蹄疫の発生状況、防疫状況については次のとおりである。

参加国の口蹄疫事情

国名	口蹄疫の発生	診断施設	ワクチンの製造	ワクチンの応用	獣医師の総数	備 考
バングラ	+++	△	○	+	1,106人	ワクチンを製造しているが不足している
ビルマ	+++	△	×	(+)	1,663	ワクチンの応用について実験中 1984年からワクチン製造の実験中
インド	++	○	○	+	28,000	
インドネシア	- (1983)	○	○	(+)	466	
韓国	-	-	-	-	5,247	
マレーシア	+	△	×	+		
ネパール	+++	△	×	+	105	ワクチンはインドから輸入
パキスタン	+	△	○	+	1,780	
フィリピン	+	△	×	+	1,623	ワクチンは英国、仏国から輸入 ワクチン製造実験中
シンガポール	- (1973)	-	-	-	41	
スリランカ	++	○	○	+	266	
ブルネイ	-	-	-	-		
香港	+	-	×	+	24	
タイ	++	○	○	+		

(注) Report of Third Country Training Programme on FMD, 1983～1985のCountry Reportより要約

参加国のうち、インドネシア、韓国、シンガポール、ブルネイを除く国は、現在も口蹄疫の発生がみられ、口蹄疫ワクチンの応用による防疫措置がとられている。インドネシアは、1988年以降、口蹄疫の発生はみられていないが、口蹄疫ワクチンを製造し、ワクチンの応用による防疫措置がとられている。また、インドネシアは、オーストラリア、ニュージーランド、英国の支援により口蹄疫撲滅計画を進めた経験を有している。韓国、シンガポール、ブルネイは、現在口蹄疫の発生はみられていないが、輸入家畜等の検疫を実施し、口蹄疫の侵入防止に努めている。

これらのことから、参加各国の本研修への参加の必要性については存在すると判断される。

(2) 参加者の選定についての評価

各国からの参加者数は合計85名(個別研修19名、集団研修66名)であるが、参加者の研修への参加の必要性について明らかにするため、参加者の参加時点における所属を要約し、その内容について分析を行った。

参加者の所属に関する要約は次のとおりである。

研 修 員 の 所 属

所 属	年 度		56		57		58		59		60		計
	コ	ー	集	個	集	個	集	個	集	個	集	個	
政府(獣医畜産局)関係者			11		4	1	8	3	10	3	8	1	49
家畜衛生関係研究所			1		6	2	5		3	3	1	2	23
ワクチン製造センター			1		1	1		1	3				7
研 修 所(獣医官)								1					1
獣 医 大 学									2				3
不 明											2		2
小 計			13		11	4	13	5	18	6	11	4	85
合 計			13		15		18		24		15		85

研修参加者の所属は、国によって様々であるが、ほとんどの参加者は口蹄疫の防疫に関して指導的立場にある人々である。一部、口蹄疫の防疫には関係していない人も参加しているが、参加者の多くは口蹄疫の防疫に関して第一線で活躍中であることから、参加者側からも本研修への参加の必要性については存在すると判断される。

(3) 専門家報告による評価

本研修期間中に8名の専門家が日本から派遣されているが、専門家が本研修についてどのよ

うな評価をしているのかを把握するため、専門家報告書を要約し、その内容について分析を行った。

専門家報告書の要約は次のとおりである。

内 容	年 度				
	5 6	5 7	5 8	5 9	6 0
1. 所期の目的を果しているか	○	○	○	○	○
2. 実施体制は良いか	○	○	△	○	△
3. 研修内容は適当か	○	△	△	△	—
4. 技術の修得は達成しているか	—	○	○	○	—

専門家の報告書では、本研修の所期の目的については達成されていると報告している。

研修の実施体制については、本研修の計画、プログラムの推進、会場の設営、参加者へのサービス等に相当の努力と熱意が払われており、ほぼ満足できるもと報告しているが、一部、参加国への研修員派遣に関する事務手続を早期に実施すべきであるとの意見も出されている。

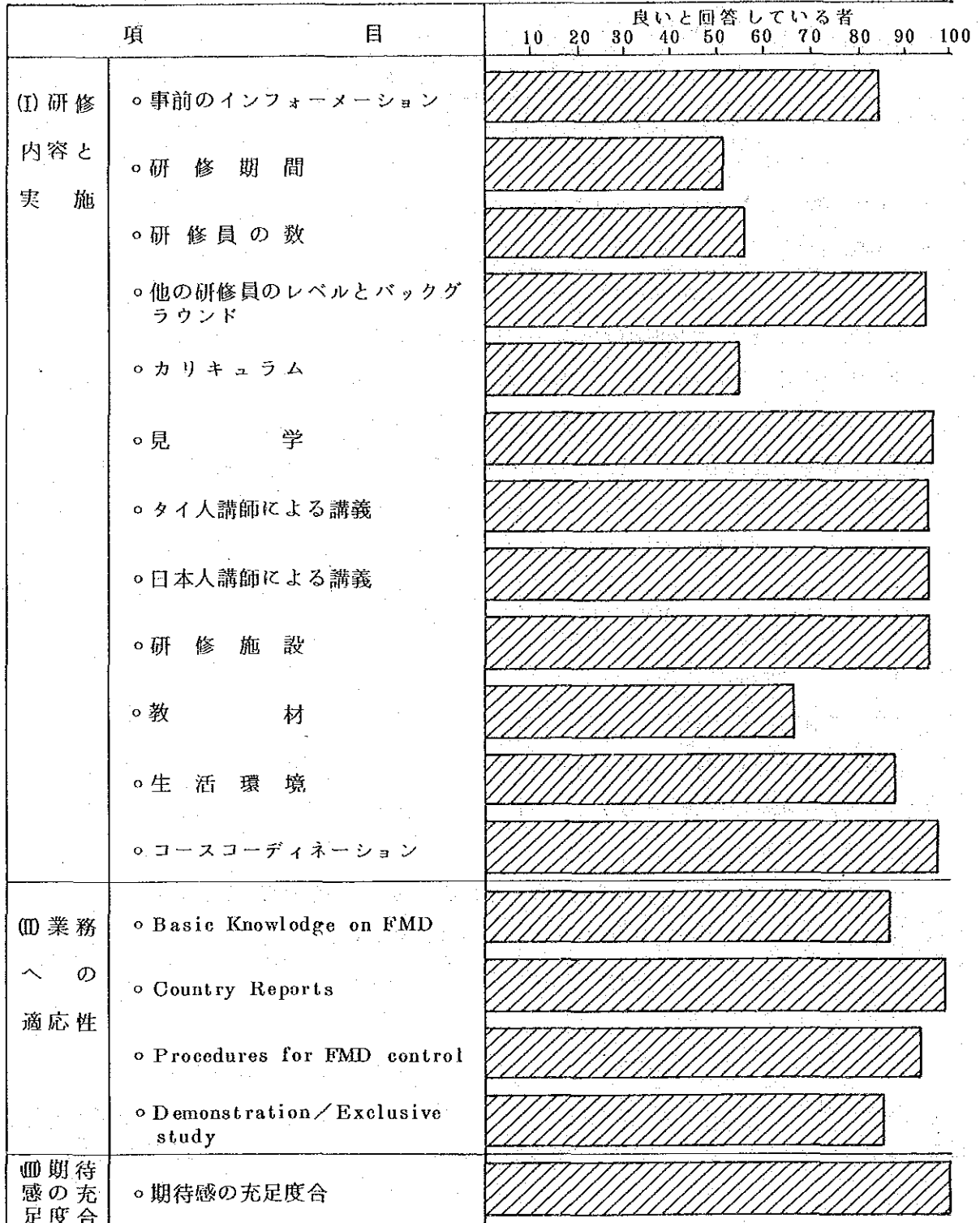
研修の内容については、集団コース、個別コースとも妥当であると報告されているが、集団コースにおいては、特別講演の演題数が多く、デモンストレーション、カントリーレポート等に十分な時間がとられなかったと指摘している。また、個別コースにおいては、参加者の技術的レベルがまちまちであり、理論や基本的実技を完全に習得するには、研修期間があまりにも短すぎると指摘している。

(4) クエスチョネアによる評価

受益者である研修員の立場から本研修についてどのような評価をしているのか、その評価内容によって本研修の評価を明らかとするため、研修員に対するクエスチョネアを実施し、その内容について分析を行った。

クエスチョネアは、JICA研修事業部で作成され、帰国研修員に郵送し、回収する方法により実施された。回収は帰国研修員66名(個別研修員19名を除く。)のうち、35名から回収された。クエスチョネアの要約は次のとおりである。

クエスチオネアの要約



クwestionネアの分析結果から、研修内容、実施方法、研修の有益性、運営、管理等全般にわたって研修員は高く評価している。

研修期間、研修員の数及びカリキュラムに関しては不適切であったと解答する研修員もいたが、総合的には高い評価が得られている。

おわりに

以上の評価活動を通して、タイ第三国研修における研修効果、研修計画、実施機関、日本の協力等についての評価並びに統合的な評価が行われた。

評価活動において分析された結果から、タイ第三国研修は当初目的の口蹄疫に関する東南アジア域内における効果的防除システムの確立、協力体制の強化に寄与することが出来たと判断される。

本研修のシステムがインドネシア家畜疾病第三国研修にも適用され、本研修での経験が引き続いて生かされることは本研修の有益性が高く評価された結果である。

(5) 実施機関による評価

畜産開発局も実施機関としての立場から毎年コース終了時にエバリュエーションシートを研修員に手交・回収し、次年度以後の研修実施にフィードバックさせるべく集計・分析を行ってきた。各年のエバリュエーションシートのサマリーレポートは別添のとおりであるが、毎年指摘されてきた点は以下のとおりである。

- ① 集団研修の研修期間が短い。(約20日間)
- ② 各コース、各国からの定員を2名とすることが望まれる。
- ③ G.I. の早期発送が望まれる。
- ④ 個別研修と集団研修の実施意義が認められた。
- ⑤ 個別研修における実習時間が短い。(実習時間は実習材料、検体、教官の数が前提条件となって決定される。)

4. 終了時評価

4.1 評価方法及び評価作業

- ① 評価は受益者である研修員の立場からみた評価をベースに研修実施機関（DLD）のコメント及び第三国研修の窓口であるDTECのコメントを参考としつつ我が方でとりまとめ、これを最終的にタイ側との間で確認する形式をとった。また評価の英語文章についても我が方の原案をタイ側に示し、これに対して部分的にタイ側が追加する形とした。
- ② 最終年の調査に先立ち、予めJICA研修事業部で作製したクエスチオネアをタイ事務所を通してDTEC、DLDに送付し、回収した。この結果35名より回収することができた。（帰国研修員の内訳は個別研修員19名、集団研修員66名、全体85名である。）
- ③ クエスチオネアの回収結果を項目毎に集計分析し、調査団としてコメントを付した。この場合DLDのコーディネイター（本コース総括責任者）等との間で主な項目にわたり意見交換を行うとともに、この結果を評価のとりまとめの中で反映させた。一方、DLDも研修実施機関としての立場から我が方の内容と類似したアンケート（別紙参照）を毎年研修員に手渡し、回収している事から、とりまとめにあたっては一応我が方のクエスチオネアの分析結果も十分考慮に入れつつ作業を進めた。また、DTECも訪問し、研修の評価について意見を得た。

4.2 評価結果

研修内容、実施方法、研修の有益性、運営・管理等コース全般にわたって研修員、運営実施機関（DLD）より高い評価が得られた。

(1) 研修内容と研修実施

① 事前のインフォメーション

事前のインフォメーションについて、日本側のクエスチオネアでは、83%が満足していると書いていた。しかしながら、DLDのクエスチオネアによると、大部分が不十分としている。これについては、General Information（GI）の準備に時間がかかり、実施3カ月前に未だできていない場合があった事による。2ヶ月前のGIでは、参加者を決めるのが大変との意見が多かった。従って電報等でGIを送った事もあると聞いている。電話等で確認した時もあった。急の時はDLDは、通常のオフィシャル・チャンネルの他に各国のカウンターパートや前年の参加者、各国大使館関係者や知り合い等複数のチャンネルを補完的に用いてGIを送付した。また、JICA本部も在外事務所を通じて同様にGIを送付した。ビルマに対しては、FAOを通じてGIを送付した。DTECに対する連絡を密にしながら、関係機関のGI早期配布が望まれる。

② 研修期間

51%の研修員が適切であると答えている。しかしながら、インドネシアの研修員は短いと答えている。インドネシアは、家畜衛生研究所長が研修に参加する等かなり熱心であり、特に細かい技術について、より長い研修期間を望んでいた。何人かの参加者は、集団研修の期間が短いと感じていた。

③ 研修員の数

57%が適切と考えていた。DLDの調査によると、参加国より長期研修2名、短期研修2名にして欲しいの意見があった。また、タイ、マレーシア、インドネシアでは、研修を家畜衛生関係の管理者教育としても考えており、より多くの受け入れ数を希望していた。特にタイDTECに於いてこの意見が聞かれたのには留意する必要があると思われる。また、同じ研修員が再び参加する例も見られた。

④ 他の研修員のレベルとバックグラウンド

94%が適切と答えていた。1、2件の例では、獣医関係者以外の参加が見られたが、その国に於いては、獣医は主として管理業務で忙しくて参加出来なかった事による。特にブルネイでは、口蹄疫関係者が政府高官であり、参加できなかった。また国により研修の意義についての理解が異なり、その点についての説明が必要と思われた。DTECでは、今後の方向として、大学院教育レベルの研修と管理者教育レベルの研修も希望していた。全体としては、ほぼ満足すべきレベル、バックグラウンドを有していると考えられる。

⑤ カリキュラム

イ. 科目の範囲

54%が適当と答えているが、43%がやや広いと答えている。個別研修は、技術中心に行なわれたが、インドネシアからは、蛍光抗体法、ELISA、放射免疫拡散法(SRID)、電気泳動等の項目を加える事を希望していた。毎回異なる研修内容、新しい研修内容を行なえば同一人物が再び研修に参加でき、管理者研修として有利との意見がタイ、インドネシアから得られた。集団研修については、概ね適当と考えられた。

ロ. レベル

65%が適当と考えているが、29%がやや高いと考えている。特に集団研修に於いて遺伝子レベルの話について、他の講師の口蹄疫の疫学の内容とバランスについてプログラムの工夫、事前協議が必要かと考えられた。タイ側からは、現場との関連について実際的な講義内容が多く見られたので、これらとの連続性が必要と考えられた。

ハ. 時間配分

講義については、半数が適当と答えている。討議についてやや少ないが20%見られた。カントリーレポート好評の半面、その討議により多くの時間の要望が見られた。この点の充実が望まれる。実習の時間配分については、やや多いとやや少ないの意見が分かれた。

見学の時間配分について多くの研修員は多いと答えている。見学での国内旅行は忙しい様に思われ、見学より参加者の経験の討議により多くの時間との希望が有るように思われた。

⑥ 見 学

97%が適当と答えており、これは各評価の中で最高の数字であり内容的には全く問題が無いと思われる。

⑦ タイ人講師及び日本人専門家による講義

両者とも概ね満足すべき回答を得ている。

⑧ 研修施設

個別研修は、パクチョンに於いて行なわれたが、バンコクの北方170kmの農村地帯にあり、研修員のための娯楽、レクリエーション設備の不備が考えられた。今後、研修を行う時は、テニスコートその他設備の充実が望まれる。しかしながら、現時点では、54%が very good or excellent と答えており、問題は無いと思われる。

⑨ 教 材

68%が適当と答えているが、残る32%は問題ありとしている。教科書の印刷に時間がかかる為、研修時、一つのまとまった本としての教科書の早期準備が必要と思われた。研修後、記録としての本は出版されている。また技術面での実習に於ける英文マニュアルの充実も研修員の為に必要と思われた。

⑩ 生活環境

12%が poor と回答しているが、大多数が満足していると答えているので適当であったと思われる。

⑪ コースコーディネートション

97%が適切であったと答えている。概ね満足すべきものであったと思われる。

(2) 業務への適用性

① Basic knowledge on FMD

General feature of animal virus replication, Protein synthesis, Genetic engineering 等について不足が感じられた。この原因としては、主催者側としては、FMDの実際面の研修を主体とし、これらの点については基本を紹介するのみにとどめた事による。また、参加国の実情としてこれらの実用性については未だ実用性を考えていないように思われた。基本の紹介で十分のように思われる。

② Country Report

Country Report については、非常に好評であった。これはFMD汚染国、非汚染国ともに好評であった。汚染国ではFMD撲滅計画の参考になり、非汚染国ではFMD検疫実施の参考になった。これに対してはより多くの時間、討論の希望があった。期待感の充足度合い

も、これにより高められた。特に、FMD Situation（発生状況）に関する発表については、非常に参考になると回答している。また、FMD撲滅計画に関する発表についても非常に参考になったと評価している。

③ Procedure for FMD control（FMD撲滅方法）

FMD撲滅方法については、概ね好評で適応可能と答えている。特にDisease controlとInternational cooperationについて高い評価が得られた。Vaccination campaignとVaccine quality controlについても、比較的高い評価が得られた。以上の項目について主催者が力を入れて研修を行った様にみうけられ、参加者のニーズに答えている様に思われる。抗原変異と抗原抗体反応については、内容がやや難しい様に思われ、適応性の低いのはうなずかれる。

④ Demonstration / Exclusive study

これらの項目については、少数の参加者について適応の可能性が低いと答えている。ワクチン製造、FMD診断及び患畜の観察、ワクチンの効果検定について概ね好評であった。患畜からの採材や材料の輸送について低い適応性の回答が得られた。これらの点は、研修員の関心の非常に高い領域と思われるので、より多くの時間配分や、教科書の充実が望まれる。

(3) 期待感の充足度合

① 100%の研修員が満たされたと答えており、59%が非常によく満たされたとしている。研修は概ね満足すべき内容であったと思われる。

② ブルネイ、韓国は口蹄疫の非汚染国であり、検疫の情報としてのカントリーレポートは非常に役に立ったと回答している。ブルネイは研修後検疫所の建築を開始した。診断について、韓国、マレーシアは検疫の準備中なので、非常に有意義であったとしている。バングラデシュでは、今回は研修員を派遣して、関係者を教育し、管理者教育に役立てるとの事であった。汚染国のマレーシアにおいても口蹄疫撲滅の為にカントリーレポートを非常に高く評価していた。また、マレーシアからの研修員はワクチンの検定法について役に立ったと回答している。ビルマからは、FAOを通して家畜衛生局長が参加し、インドネシアからは、家畜衛生研究所長が参加した。従って本研修は、業務上の意志決定について有効であったとしている。

参加国の6ヶ国（バングラデシュ、インド、インドネシア、パキスタン、スリランカ、タイ）はすでにワクチンを製造しており、適応性は特に高いと考えられる。また、これらの国では管理職研修としても当研修を位置付けておく、研修後の昇進が見られた。

フィリピンにおいては、FMDワクチン輸入をしていたが、研修後、自家生産に切り変えた。その試験的製造に於いて研修は役に立ったと参加者も報告している。マレーシアに於いても研修後、試験的製造を開始したと参加者が報告している。

(4) その他

- ① 多くの研修員により研究室で働いている獣医とフィールドで働いている獣医との経験交流が重要で有ることが確認された。本研修の経験とシステムが日本政府とインドネシア政府の間で実施された第三国研修に適用された事は特筆すべきである。
- ② 研修に入る前のセミナーは重要である。シニア・オフィサーによるセミナー、討議は参加国研修員のニーズを的確にとらえ、これに対応した主催者側のカリキュラムの編成を可能にする。このシステムは今回コースを通してその有効性が示された。

4.3 文書作製（ドキュメンテーション）

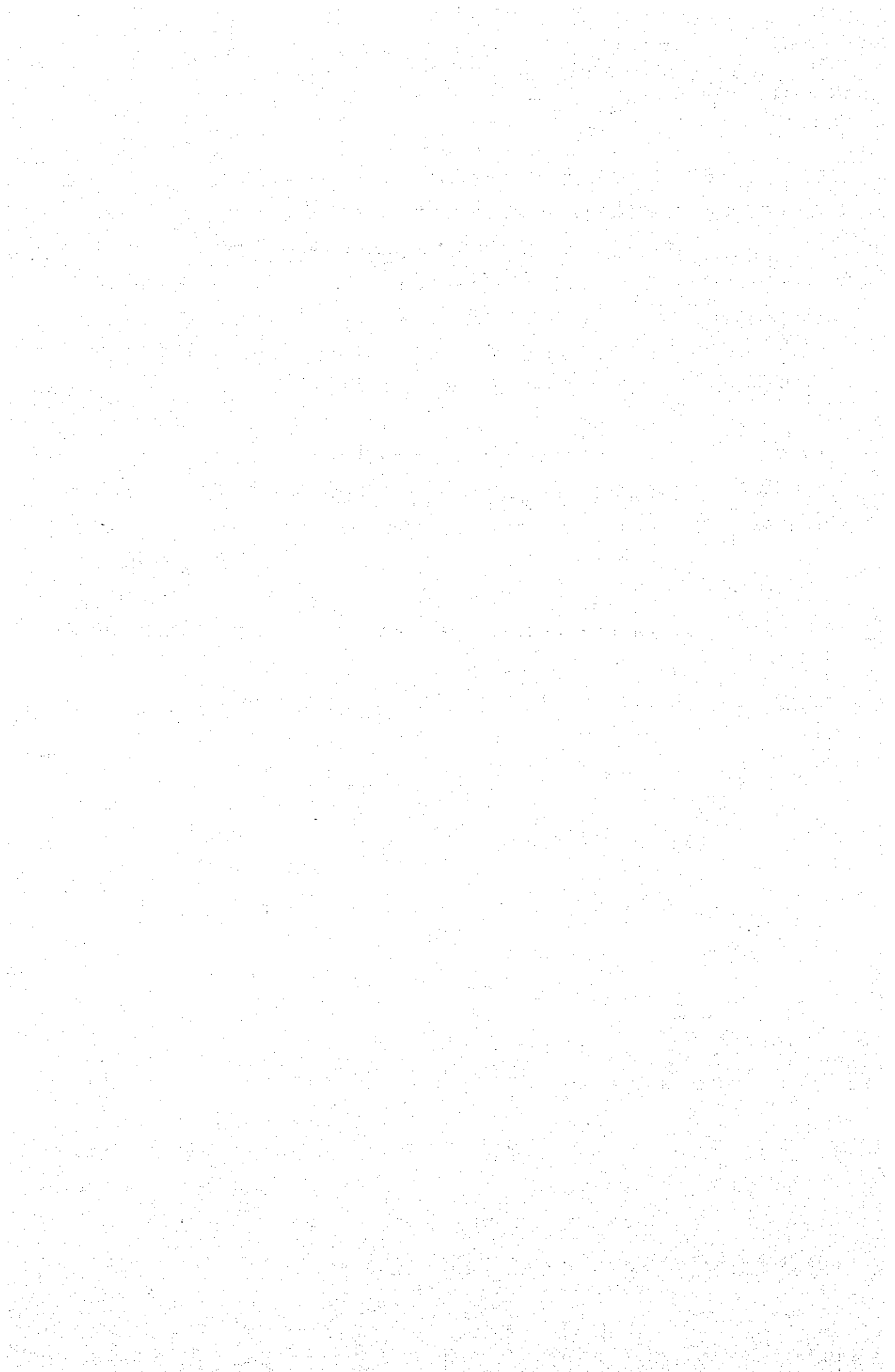
以上の作業や視察、討論を通して得られた結果を先ず我が方調査団がとりまとめ、これを7月23日（水）午後JICA事務所に於ける全体会議でDTEC、DL D関係者と一節毎に内容、表現について詳細に検討を重ね、最終案得た。それで得た英文は、Minutes of Discussionsに添付される事となった。

以上の経緯のもと、Minutes of Discussionsの内容について、日・タイ間で合意に達し、7月24日（木）午後にTim Bhannasiri DL D局長と石崎団長により署名された。

Ⅳ タイ 第三国 研修

プライマリー・ヘルス・ケア

コンタクトミッション 報告



1. コンタクトミッションの派遣

1.1 派遣の経緯と目的

本年5月下旬、現在プロジェクト方式技術協力（ASEAN入造りプロジェクト・タイ国プライマリー・ヘルス・ケア訓練センター）が実施されているマヒドン大学（ATC/PHC）より第三国研修（PHC/マスターコース 10ヶ月）の要請ドラフト案が提出され、これを受け要請背景・内容を確認するべく調査団が派遣された。

2. 要請の背景

- (1) 過去3ケ年にわたりJICAプロジェクト技術協力により、ATC（ASEAN TRAINING CENTER）にて実施されてきた国際研修（International Training 及び Seminar）がWHO・Secretary General Dr. Mahler のATC 訪問に象徴されるように、国際的な評価を得つつある。
- (2) 上述(1)を踏まえ、ATCはJICAプロジェクト技術協力の枠外においても、世銀等の協力により国際研修（インドネシア研修員向け Management Course）を独自に運営可能な段階まで発展した。
- (3) これまでの実績に対する高い評価と Master Course を実施することを前提に、ATCがマヒドン大学附属の“Center”から“Institute”に昇格することが内定している。（現在、タイ政府大学省の承認待ちである。）
- (4) ATCは今後WHO— SEARO のPIRC（Primary Health Information Resource）として機能することが期待されており、従来の研修・研究機関としての性格のみならず、PHCに係る情報センターとしての機能をも具備することとなる。

3. 研修概要

(1) 目的と内容

タイ国を含む、ASEAN各国において、保健・公衆衛生に携わる中堅行政官を対象に、タイ国内フィールド調査と論文作成を通じ、PHC活動を展開すべき各現場において必須とされる運営管理能力（Management）及び、PHC活動の従事者（保健婦他）に対する指導・助言能力（Leadership）の養成を主眼とし、もってASEAN域内の相互協力とPHC活動のより活

発な展開と実施に寄与しようとするものである。

(2) 特 徴

マヒドン大学公衆衛生学部 (M.U/F.P.H.) に当該分野 Master Course が既に開講されているが、同コースが純粋に学術的なアプローチを特徴としていることに対し、本件第三国研修 (ATCの Master Course) は ASEAN 各国に開放されていること及びタイ国内の各フィールドを十分に活用し、行政官向けの実務研修の実施を特徴としている。

(3) そ の 他

- ① 本研修コースは、Chantaburi 及び Nakon Sawan の Model Development サイトと国内 4ヶ所に位置する RTC (Regional Training Center : 保健省管轄) との緊密な連携を保ちながら運営され、上述の II-(1)、(2) が実現可能となっている。
- ② 当国 DTBC (Thai-Aid Division) も、本件実施に向けて、積極的に関係各方面との調整にあたっている。
- ③ 詳細は別添タイ側プロポーザルのとおりである。

(4) シラバス

(Tentative)

Master Program / PHC ManagementCourse Syllabus

Course Title	Cr.	Time Allocation (hrs)					Place	
		L.*	Lab.**	FS.**	WS.**	Rs./Sv.**	Class	Field
- Biostatistics	3	32	32	-	-	-	64	-
- Epidemiology	3	32	32	-	-	-	64	-
- Environmental Health	3	32	-	32	-	-	32	32
- Ppls of Public Health Administration	3	40	-	16	-	-	40	16
- Health Economics	3	32	16	-	16	-	64	-
- Research Method	3	32	4	-	16	12	52	12
- Computer Programming	3	20	68	-	-	-	88	-
- Ppls of PHC/HFA	3	32	-	16	16	-	32	32
- Planning & Evaluation in Health Education	2	16	-	-	16	-	16	16
o <u>RESEARCH & THESIS</u> (5½ months)	14							
- Thesis	3	-	-	32	-	32		64
- Situation Analysis	2	-	-	16	-	32		48
- Org, Behavior	1	-	-	16	16	-		32
- Health Manpower M. Management	2	-	16	16	-	16		48
- Health Leadership Development	1	-	-	16	-	16		32
- Intersectoral Co - op	1	-	-	16	16	-		32
Management of Training Course	2	-	-	16	16	-		32
- Technical skills PHC development	2	-	-	32	-	-		32

Remark *1 Lecture hour = 2 Lab hrs**, FS., WS., RS.

1 Semester credit = 1 Lecture hour/wk.16 wks.

L = Lecture, Lab = Laboratory, FS = Field study, WS = Workshop, Rs/Sv = Research/Survey

Cr: Credit (単位)

HFA : Health for All (アル・マアタ宣言より)

Ppls : Principles

4. 本研修に関するタイ側の考え方

4.1 日本人専門家団との打合せ

7 / 25 (金) 08:00 マヒドン大学及びATC / PHCにおける会議に先立ち、ホテルにて岩村リーダー及び鈴木調整員より、ATC / PHCプロジェクトの概要並びにタイ側が提案越したPHC第三国研修の概要及びその背景等について簡単に説明を受けた。

4.2 Natth 学長との会談要旨

09:30 マヒドン大学医学部附属病院(トンブリ)にて、Dr. Natth マヒドン大学長と30分間にわたり会見し、標記第三国研修に関する基本的事項について同学長の考え方を質問したところ、概略以下通り、

- (1) 標記第三国研修は、PHCに係るマスターコースにしたいと考えており、これを実現する意味合いもあり、現在ATC / PHCをASEAN Institute of Health Development (学部と同格レベル)に組織変更すべく申請手続中のところ、7月8日付でマヒドン大学のUniversity Councilで承認され、現在はMinistry of Universityにて審査中である。同省における審査もほぼ問題ないと思われるところ、PHC(マスターコース)第三国研修実施のための体制は一応整いつつある。
- (2) 今年10月より開始せられる第6次国家経済開発5ヶ年計画の中にも上記(1)の組織変更計画は含まれており、これにて右計画の趣旨は国レベルで承認されたと見て差しつかえないと思われる。
- (3) PHC(マスターコース)の第三国研修の開始時期(9月説と5月説があるが)は、実施機関であるATC / PHC所長の考え方に一任する。
- (4) PHC(マスターコース)の第三国研修の実施期間中、もし可能であれば、アセアン諸国及び日本におけるPHCの現状等について研修員が視察できる機会を設けたいと希望している。(注:これに対し、石崎団長より、先般Dr. NatthがJICA訪問の折に伝えてある通り、JICAとしても一般論としては、この種の企画の必要性を従前より認識しており、日本政府の財政当局に予算措置方訴え続けている。しかし、“水辺まで馬をつれては来たものの、果たして馬が水を飲んでくれるか否かは馬次第である”旨説明したところ、Dr. Natthもこれに一応理解を示し始めた。)
- (5) なお、本件第三国研修計画とPHCプロジェクト本体計画との関係に係るDr. Natthの質問に対し、石崎団長より、個人的な考え方であると前置きしつつ以下の通り答えたところ、Dr. Natthは考え方が明確に整理されたとして満足の意を表した。
 - (i) 本件第三国研修計画案は、基本的にはプロジェクト本体計画とは一応切り離して考える筋

合いのものであり、プロジェクトの延長線で（例えば、プロジェクト Additional Programme”としてとらえるものではない）考えるべきものではない。

(ロ) 従って、タイ側が心配しているように、プロジェクトに配布せられた経費を第三国研修に流用することは基本的には考えられず、第三国研修実施経費は第三国研修独自の予算措置がなされることになる。但し、事業は異なっても同じ JICA の傘のもとに実施される両事業なので教材等プロジェクト協力の既存の一部成果品の第三国研修コースへの活用や両者間の連絡・調整を図ることは言わずもがなである。

(ハ) また、タイ側関係者の一部に“本件第三国研修の実施は、即プロジェクト協力の打ち切り”につながるのではないかと懸念が多分にあるようだが、上述の通り、両者は制度上別個のものであり、かかる心配はない。即ち、通常プロジェクト協力期間の延長の是非は主として R/D に記述されているプロジェクトの所期目的がどの程度達成せられたかを日・タイ双方レビューし決められるもので、第三国研修の実施という外的要因で直接的には左右されない。一方、第三国研修コース設置の是非は ATC/PHC が第三国研修の host 国の研修機関として要求される諸能力（施設、講師陣の指導力、教材、ローカルコスト等の一部経費負担能力）をどの程度現時点で持ち備えているかによって決まるものである。

4.3 ATC/PHC 関係者による PHC（マスターコース）第三国研修概要説明要旨

Dr. Natth マヒドン大学長との会見に引き続き、ATC/PHC 所長以下関係者より標記第三国研修コース（PHC マスターコース）案の概要につき説明を求めたところ、その主な内容は以下の通りである。（尚、同会議には DTEC より、Thai Aid Programme Sub-Division の Director Mr. Manop も出席していた。）

(1) ATC が過去 3～4 年間にわたり実施した研修コース内容は PHC に係る政策決定者レベル（Policy Making Level）を主対象としたものであったが、今回提案の第三国研修コースのもとで、これらの実績をベースに、今度は中間管理者（※ Middle Level Health Worker）が村落レベルの PHC を含む保健衛生行政の推進にあたりリーダー権を発揮し得るようコースを開設し、practical な側面に研修の焦点を合わせつつ、field work 志向の研修プログラムを編成した。

（※ 中間管理者とは県の衛生課長クラスにあたる）

(2) 期間は 10 ヶ月のマスターコース（資格条件等については別添コース概要参照のこと）とする。開始時期は 62 年 5 月を希望。なお、DTEC の Mr. Manop より、DTEC としてもローカルコスト等予算的措置を構する必要がある、R/D 署名時点からコース開始時期までに 6～12 ヶ月の準備期間が必要。

(3) 講義と field study の時間配分は各々 50% とする。なお、この中でも講義のための講義な

いしは field study only 形をとらず、常に二者間で互いにフィード・バックし合うように留意する。

- (4) (石崎団長より本件コース実施に関し、保健省との協力関係につき質問したところ)

junior health officer を対象とした既存コースの実施に関連し、病院等で既に協力関係にあり、第三国研修のもとでも強力なサポートが得られるものと確信している。

- (5) 事前調査団の派遣は、上記(2)のこともあり、少なくとも9月中には派遣してほしい。(これに対し、石崎団長より調査団を9月には派遣したい旨答えた。)

- (6) 本件コースが合意された場合、タイ側における研修実施機関(implementation agency)は、ATC=ASEAN Institute of Health Development である。(但し、R/Dの署名は Dr. Natth (マヒドン大学学長が代表して行うことになると思われる。))

- (7) なお、石崎団長より、標記PHC第三国研修に一見類似しているとも受取られる Urban Health Care コース(10ヶ月コース、マスターコース)との区分につき特に質問したところ、後者は通常タイプの講義中心の academic コースであり、受講者も学生、研究者等が中心であるが、前者は保健衛生分野の中間管理者(保健省県衛生課長ないしは郡衛生部長クラス)で、3年以上の実務経験を有する者を対象とした実践研修を重視したコース内容である旨答えた。

別 添 資 料

I シンガポール・港湾管理，港湾機器維持・管理第三国研修

1. Minutes of Discussions
2. 実 施 要 領
3. J I C A ク エ ス チ ョ ー ネ ア (港 湾 管 理 コ ー ス)
4. P S A エ バ リ ュ エ ー シ ョ ン シ ー ト (港 湾 管 理 コ ー ス)
5. P S A エ バ リ ュ エ ー シ ョ ン レ ポ ー ト (港 湾 管 理 コ ー ス)
6. 港 湾 管 理 コ ー ス 概 要 (日 程 ・ 講 師 リ ス ト ・ 研 修 員 リ ス ト 含 む)
7. 港 湾 管 理 コ ー ス 研 修 科 目 の 範 囲

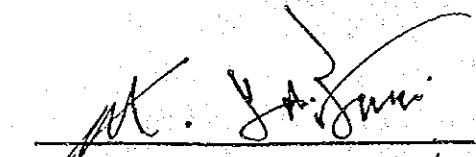
1. Minutes of Discussions

MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND THE
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF SINGAPORE ON THE THIRD
COUNTRY TRAINING PROGRAMME

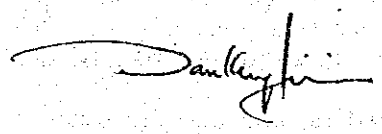
The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organised by Japan International Co-operation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr Mitsuo ISHIZAKI visited Singapore from July 14 to July 20, 1986 for the purpose of evaluating the training courses in the fields of "Port Management and Operation" and "Management and Maintenance of Port Equipment" conducted at the Port of Singapore Authority in the fiscal year of 1986 (April 1, 1986 - March 31, 1987) under the Third Country Training Programme of JICA as one of the Immediate Action Programme of the ASEAN - Pacific Co-operation for Human Resources Development.

During its stay in Singapore, the Team had a series of discussions with the authorities concerned of the Singapore Government with respect to the achievement of the abovementioned training course, outline of which is summarised and attached as the summary report.

Singapore, July 19, 1986



MITSUO ISHIZAKI
HEAD
JAPANESE EVALUATION TEAM
JAPAN INTERNATIONAL CO-OPERATION
AGENCY



TAN KENG JIN
DIRECTOR GENERAL
SINGAPORE ASEAN NATIONAL
SECRETARIAT

SUMMARY REPORT ON THE EVALUATION OF THE COURSE IN PORT MANAGEMENT AND OPERATION

1. OBJECTIVES

With regard to the awareness of the course objectives before coming to Singapore, 85% of the participants marked positive answers.

Achievement of major objectives and fulfilment of their expectation of the course was satisfactory since all the participants answered "favourably".

2. CURRICULUM DESIGN

1. 77% of the participants regarded the coverage of the subject as "just right", while 23% of the participants regarded it as "somewhat broad" or "too broad". In view of these comments it would appear that the coverage on the course was appropriate.

Since the course is intended to provide the participants with the knowledge and experience required to enhance the capability of middle management administrative port officers, it may be unavoidable in a sense that the training programme tends to cover wide areas.

Two of those who commented "somewhat broad" are at present engaged in supervisory works related to field activities in the port and therefore it is quite understandable for them to make such a comment.

2. Regarding the level of curriculum, 54% of the participants answered "just right". However, another half or 46% of them answered "advanced". In view of the above, the level of curriculum appears to be somewhat advanced.

Majority of the participants are those belonging to the middle management level and therefore follow the course contents adequately. However, for those who are not directly engaged in such administrative works, some subjects were unfamiliar and therefore considered difficult.

3. 30% of the participants commented that time allocation for lecture was just right. 70% of participants felt that too much emphasis was placed on lectures.
4. Regarding the time allocation for discussions, the comments were divided almost evenly into three categories i.e. "just right", "somewhat much", "somewhat little".

Cont'd...2/

5. With regards to the time allocation for exercise and observation, majority of the participants commented "just right". However, nearly 40% of them commented "somewhat little". Therefore, the time allocation for exercise and observation appear to be a little inadequate.

Generally speaking, there was much demand among the participants for creating opportunities for greater involvement in discussions, observation, practical training, etc.

6. With regard to intensity, 85% of the participants commented as "just right" while 15% commented "somewhat tight".
7. With regard to the training duration, 69% of the participants commented as "just right", while 23% felt that insufficient time was provided for certain lectures. As such these participants felt that the in-depth coverage could not be achieved.
8. All the participants commented that the topics covered in the course were arranged systematically.
9. Some participants who came from ports where containerisation was only in the developing stage felt that greater emphasis could have been placed on conventional cargo operation during the course. The Team is of the opinion that future courses could include more coverage on conventional operation.
10. The "Port Management Game" and the lecture on "Marketing of Port Services" were very favourably evaluated by the participants. On the other hand, lectures on the "Role of Customs" and "Future Prospects of Containerisation" could have been made more effective with the use of audio visual aids.

3. COURSE CONDUCT

1. Almost all the aspect of teaching methods of lecturers including methods of instructions and presentations, communication, participants involvement and participation, quality and quantity of training materials, quality and quantity of training facilities were very favourably evaluated as nearly 100% of the participants marked "satisfactory".

However, the participants felt that it would have been better if lecture notes had been distributed in advance.

2. As all the participants replied that what they studied in the course would be applicable in their respective countries, the training outcomes can be considered as having been beneficial.

Cont'd...3/

4. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

The participants generally commented that the course was well organised and administered efficiently with regard to the pre-course briefing, transport and accommodation arrangements.

However, 34% of the participants commented that more social programmes could have been arranged.

85% of participants commented that observation trips were well co-ordinated and prepared while 15% felt that these observation trips were not well organised.

5. TRAINING OUTCOMES

With regard to the training outcomes, all the participants were of the opinion that the course had met their training objectives satisfactorily.

6. CONCLUSION

In summary, it can be stated that the participants were generally satisfied with course coverage, conduct and administration of the port management and operation course. Therefore, it can be concluded that the course was successful and well evaluated.

However, the following points could be taken into account to improve future courses.

- 1) Allocation of more time for discussions, practical training and observations and social functions.
- 2) The greater emphasis on topics related to conventional cargo operation.
- 3) Greater efforts must be made to invite participants from the Pacific countries as these countries were not represented at the course.

7. ANNEXES

The brief summary of JICA Questionnaire, the list of course participants and the list of the Japanese and Singapore evaluation Teams are attached as annexes A, B, and C respectively.

ANNEX A

BRIEF SUMMARY OF JICA QUESTIONNAIRE

I. OBJECTIVES

1. To what extent were you aware of the objectives of this training programme before you came to Singapore?

Fully aware	15%
Almost aware	23%
Roughly aware	47%
Not aware at all	15%

2. Please indicate whether the main objectives were :

Completely met	15%
Almost met	77%
Fairly met	8%

3. In your opinion, to what extent was your expectation of this Course fulfilled?

Completely fulfilled	15%
Almost fulfilled	70%
Fairly fulfilled	15%

II. CURRICULUM DESIGN

1. Coverage, Level, Time Allocation, Intensity and Duration

- a) Coverage of the subjects

Just right	77%
Somewhat broad	15%
Too broad	8%

- b) Level

Just right	54%
Somewhat advanced	38%
Too advanced	8%

- c) Time Allocation

Lectures :	
Just right	55%
Somewhat little	15%
Somewhat much	15%
Too much	15%

Cont'd...2/

Discussion:

Just right	38%
Somewhat little	31%
Somewhat much	31%

Exercises : (Involvement of Participants)

Just right	46%
Somewhat little	38%
Somewhat much	8%
Too much	8%

Observation :

Just right	46%
Somewhat little	31%
Somewhat much	15%
Too little	8%

d) Intensity

Just right	85%
Somewhat hard	15%

e) Duration

Just right	69%
Somewhat short	23%
Somewhat long	8%

III COURSE CONDUCT

1. Teaching Method

Method of instruction and presentation:

Outstanding	17%
Very good	51%
Good	30%
Poor	1%
Very Poor	1%

Communication language:

Outstanding	20%
Very good	60%
Good	18%
Poor	2%

Cont'd...3/

Participants involvement and participation:

Outstanding	16%
Very good	48%
Good	32%
Poor	3%
Very poor	1%

Quality and quantity of training materials:

Outstanding	14%
Very good	49%
Good	37%

Quality and quantity of training facilities:

Outstanding	16%
Very good	54%
Good	30%

Total evaluation:

Outstanding	15%
Very good	61%
Good	23%
Poor	1%

2. Application of techniques and knowledge:

Quite many	8%
Many	61%
Not many	31%

IV ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

a. Co-ordination

Outstanding	8%
Very good	84%
Good	8%

b. Pre-course information (G.I.)

Very good	62%
Good	38%

c. Arrangements for Observation Trips

Very good	46%
Good	39%
Poor	15%

Cont'd...4/

d.	Housing and Food Accommodations		
	Outstanding	25%	
	Very good	67%	
	Good	8%	
e.	Allowances		
	Somewhat much	25%	
	Reasonable	67%	
	Somewhat little	8%	
f.	Transportation		
	Very good	25%	
	Good	58%	
	Fairly good	17%	
g.	Social Programme		
	Very good	33%	
	Good	33%	
	Poor	9%	
	Very poor	25%	
h.	Communication among participants		
	Outstanding	8%	
	Very good	61%	
	Good	31%	

V TRAINING OUTCOME

Very fruitful	8%
Fruitful	69%
Fairly fruitful	23%

ANNEX B

LIST OF PARTICIPANTS FOR THE PORT MANAGEMENT & OPERATIONS COURSE UNDER THE APC-HRD PROGRAMME

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
Brunei	Pengiran Hassanani Bin Pengiran Johari/Zahari Port Officer, Ports Department, Muara, Ministry of Communications Tel : 72220/72380	15 Nov '53	Male
	Mr Nordin Bin Buyong Port Supervisor, Ports Department Muara, Brunei Darussalam	27 Sep '49	Male
Indonesia	Ir Langas Denny Siahaan Head of Subdivision of Planning Arrangement for Long Term and Medium Term Planning, Bureau of Planning Jakarta - Pusat. Tel : (021) 347025	27 Mar '52	Male
Malaysia	Mr Sallehuddin Yusof Administrative Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	1 Sep '58	Male
	Mr Hamdan Mohamad Senior Traffic Officer Jabatan Terafik Lembaga Pelabuhan Kelang 42005, Pelabuhan Kelang Selangor, Malaysia Tel : 387067	6 Nov '51	Male
	Mr Hamzah Bin Abdullah Security Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	30 Sep '49	Male
	Mr Adnan Bin Abdullah Administrative Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia		Male
	Mr Dahari Bin Ujud Training Officer Kelang Port Authority Selangor, Malaysia	5 Feb '51	Male
Philippines	Engineer Roberto Abada, Jr Assistant Chief, Terminal Operations North Harbour and Concurrent Chief Technical & Research, North Harbour PPA - Port of Manila PNR Building, South Harbour Port Area, Manila, Philippines Tel : 473441/262215	11 Apr '53	Male

Cont'd...2/

	Mr Raul S Bernado Terminal Operations Officer III Philippines Ports Authority Port of Manila, South Harbour Port Area, Manila Tel : 473441/262215	3 Dec '48	Male
Singapore	Mr Tan Lay Thok Commercial Officer Operations (Directorate), PSA	26 Mar '51	Male
Thailand	Mr Chod Ketachat Chief, Cargo Section Sattahip Commercial Port Port Authority of Thailand Tel : (038) 436344 - 64 Ext 432	1 Jul '35	Male
	LCDR Autthachut Konpean Navigator 6, Harbour Department Yotha Road, Talardnoi Samphanthawong Bangkok, 10100, Thailand	11 Oct '49	Male

ANNEX C

LIST OF JAPAN/SINGAPORE EVALUATION TEAM

- | | | |
|-----|-------------------|---|
| 1. | Mr Tan Keng Jin | Director General
Ministry of Foreign Affairs |
| 2. | Mr Ong Lu King | Senior Asst Director
Ministry of Foreign Affairs |
| 3. | Mr Calvin Eu | Asst Director
Ministry of Foreign Affairs |
| 4. | Mr Tong Tek Liang | Country Officer
Ministry of Foreign Affairs |
| 5. | Mr Peter Chua | Country Assistant
Ministry of Foreign Affairs |
| 6. | Mr J Menon | Training Manager
Port of Singapore Authority |
| 7. | Mr Lee Hee Huat | Senior Training Officer
Port of Singapore Authority |
| 8. | Mr Tan Hong Chuan | Assistant Secretary
Port of Singapore Authority |
| 9. | Mr M Ishizaki | Head - Administration Division
Training Affairs Department
JICA |
| 10. | Mr H Eguchi | Director - Office of International
Co-operation Bureau of Ports and
Harbours, Ministry of Transport |
| 11. | Mr M Kitanaka | Administration Division
Training Affairs Department
JICA |
| 12. | Mr H Tanaka | Director
JICA Singapore Office |
| 13. | Mr H Yoneda | JICA Singapore Office |

SUMMARY REPORT ON THE EVALUATION OF THE COURSE IN MANAGEMENT AND
MAINTENANCE OF PORT EQUIPMENT:

1. OBJECTIVES

All the participants commented that the major objectives of the course were adequately fulfilled.

2. CURRICULUM DESIGN

1. The majority of the participants commented that the coverage of subjects and levels were appropriate. However, some comments were made to the effect that certain subjects were treated too broadly. These comments may have been due to the fact that interest vary according to their specific duties.
2. The majority of the participants indicated that the time allocation for discussions was adequate however, some participants indicated that lecture duration should be increased.

With regard to participants' involvement in discussion and observation tours, the majority of participants commented that the time allocation were more or less appropriate.

3. With regard to intensity, the comments are also evenly divided between "just right" and "somewhat tight". 30% of participants commented that course duration was short. Interview with individual participant confirmed the comment.
4. With regard to the most, or least valuable topics, comments were split among the participants. The Team is of the opinion that the variation in comments was an indication of individual interest.

3. COURSE CONDUCT

1. Most participants commented that the teaching and instruction methods were satisfactory.
2. Since all the participants commented that the knowledge gained could be applied in their respective jobs, the training outcomes could be considered as having been beneficial and useful.

4. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

Regarding the administration and management covering co-ordination, pre-information, allowances, observation tours accommodation arrangements, and transportation, participants commented that the arrangements made were satisfactory and adequate. However, a few participants indicated that more social programme could have been organised.

Cont'd...2/

5. TRAINING OUTCOMES

Training outcomes of the course was considered as having been met satisfactorily as 90% of participants commented favourably.

6. CONCLUSION

1. Since all the participants commented favourably about the course, it can be concluded that the course was successfully organised and that the stipulated training objectives had been adequately met.
2. Since a number of participants indicated that it would be desirable to extend the duration of the course by a few additional days, the Team felt that there may be a case to increase the duration of the course.

7. ANNEXES

The brief summary of JICA Questionnaire, the list of the course participants and the list of the Japanese and Singapore evaluation Teams are attached as annexes A, B and C respectively.

ANNEX A

BRIEF SUMMARY OF JICA QUESTIONNAIRE

I. OBJECTIVES

1. To what extent were you aware of the objectives of this training programme before you came to Singapore?

Fully aware	40%
Almost aware	30%
Roughly aware	20%
Not aware at all	10%

2. Please indicate whether the main objectives were :

Completely met	10%
Almost met	50%
Fairly met	10%

3. In your opinion, to what extent was your expectation of this Course fulfilled?

Almost fulfilled	60%
Fairly fulfilled	40%

II. CURRICULUM DESIGN

1. Coverage, Level, Time Allocation, Intensity and Duration.

- a) Coverage of the subjects

Just right	70%
Somewhat broad	20%
Somewhat incomplete	10%

- b) Level

Just right	70%
Somewhat advanced	20%
Too advanced	10%

- c) Time Allocation

Lectures :-

Just right	45%
Somewhat little	33%
Too little	22%

Discussion:

Just right	78%
Somewhat little	11%
Too little	11%

Exercises:

Just right	66%
Somewhat much	17%
Too little	17%

Observation:

Just right	56%
Somewhat short	22%
Somewhat long	11%
Too long	11%

d) Intensity

Just right	44%
Somewhat hard	44%
Somewhat leisurely	12%

e) Duration

Just right	67%
Somewhat short	33%

III. COURSE CONDUCT

1. Teaching Method

Method of instruction and presentation :

Outstanding	16%
Very good	62%
Good	22%

Communication language:

Very good	61%
Good	36%
Poor	3%

Participants involvement and participation:

Outstanding	14%
Very good	28%
Good	55%
Poor	3%

Quality and quantity of training materials:

Outstanding	12%
Very good	30%
Good	58%

Cont'd...3/

Quality and quantity of training facilities :

Outstanding	19%
Very good	37%
Good	44%

Total evaluation :

Outstanding	9%
Very good	49%
Good	42%

2. Application of techniques and knowledge :

Quite many	10%
Many	50%
Not many	40%

IV ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

a) Co-ordination for course conduct

Outstanding	20%
Very good	20%
Good	60%

b) Pre-course information

Outstanding	22%
Very good	22%
Good	56%

c) Arrangement for observation trips

Outstanding	20%
Very good	30%
Good	50%

d) Housing and Food Accommodation

Outstanding	22%
Very good	33%
Good	45%

e) Allowance

Reasonable	100%
------------	------

f) Transportation

Very good	22%
Good	33%
Fairly good	45%

Cont'd...4/

g) Social Programme

Very good	38%
Good	50%
Poor	12%

h) Communication among participants

Very good	40%
Good	60%

V : TRAINING OUTCOME

Attainment of technique and knowledge

Fruitful	50%
Fairly fruitful	40%
Not fruitful	10%

ANNEX B

LIST OF PARTICIPANTS FOR THE MANAGEMENT AND MAINTENANCE OF PORT EQUIPMENT COURSE UNDER THE APC - HRD PROGRAMME

<u>Country</u>	<u>Name/Designation</u>	<u>Date of Birth</u>	<u>Sex</u>
Brunei	Ak Mohd Kipli Bin Pengiran Abdullah Mechanic, Ports Department Muara, Brunei Darussalam Tel : 72220/72380	16 Mar '57	Male
	Mr Lai Bon Shim @ Lai Bun Ching Plant Attendant, Ports Department Muara, Brunei Darussalam Tel : 72220/72380	20 Aug '57	Male
Philippines	Mr Reynaldo A Tuazon Port Engineer B Philippines Ports Authority Maintenance & Equipment Dept., 3rd Floor, 13 F Condominium Advana, Intramuros, Manila, Philippines Tel : 26-65-88	9 May '40	Male
	Mr Andres Candaroma Jr Engineer B, Philippines Port Authority, Port of Manila, PNR Building South Harbour, Metro Manila, Philippines Tel : 47-34-41 to 49	8 Dec '52	Male
	Mr Raymond O Espiritu Training Officer B (Acting) Philippines Ports Authority PPTC Building, Gate 4, Port Area Manila, Philippines Tel : 49-66-63	31 Jan '44	Male
Malaysia	Mr Mohamed FOzi Bin Ismail Technical Assistant Johore Port Authority 81707, Pasir Gudang Johore, Malaysia Tel : 915948	22 Nov '63	Male
Singapore	Mr Khaw Wai Meng Principal Engineer (Mechanical) Electrical Engineering Dept., PSA	14 Jul '54	Male
	Mr Wong Kow Chye Higher Technical Officer (Electrical) Electrical Engineering Dept., PSA	21 May '49	Male
Thailand	Mr Nipon Buatoom Chief of Fork Lifts Section Port Authority of Thailand Bangkok, Thailand Tel : 249-0399 Ext 2517	25 Mar '37	Male

Cont'd...2/

Mr Chalerm Sakhomuan
Assistant Chief of Repair and
Maintenance Section
Port Authority of Thailand
Klongtoey, Bangkok 10110,
Thailand
Tel : 249-0499 Ext 2522

8 May '41

Male

ANNEX C

LIST OF JAPAN/SINGAPORE EVALUATION TEAM

- | | | |
|-----|-------------------|---|
| 1. | Mr Tan Keng Jin | Director General
Ministry of Foreign Affairs |
| 2. | Mr Ong Lu King | Senior Asst Director
Ministry of Foreign Affairs |
| 3. | Mr Calvin Eu | Asst Director
Ministry of Foreign Affairs |
| 4. | Mr Tong Tek Liong | Country Officer
Ministry of Foreign Affairs |
| 5. | Mr Peter Chua | Country Assistant
Ministry of Foreign Affairs |
| 6. | Mr J Menon | Training Manager
Port of Singapore Authority |
| 7. | Mr Lee Hee Huat | Senior Training Officer
Port of Singapore Authority |
| 8. | Mr Tan Hong Chuan | Assistant Secretary
Port of Singapore Authority |
| 9. | Mr M Ishizaki | Head - Administration Division
Training Affairs Department
JICA |
| 10. | Mr H Eguchi | Director - Office of International
Co-operation Bureau of Ports and
Harbours, Ministry of Transport |
| 11. | Mr M Kitanaka | Administration Division
Training Affairs Department
JICA |
| 12. | Mr H Tanaka | Director
JICA Singapore Office |
| 13. | Mr H Yoneda | JICA Singapore Office |

2. 實 施 要 領

MFA C072:400/24/23N/1/1
MFA/ASEAN/89/86

The Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Singapore presents its compliments to the Royal Thai Embassy and has the honour to inform the latter that under the Immediate Action Programme of the ASEAN-Pacific Cooperation for Human Resources Development, Singapore in cooperation with Japan will jointly organise the following courses for the financial year 1986/1987:

<u>Course Title</u>	<u>No. of Fellowships</u>	<u>Training Department</u>
(a) Port Management and Operations	15)	Port of Singapore Authority
(b) Management and Maintenance of Port Equipment	15)	
(c) Airport Management	9)	Civil Aviation Training Centre
(d) Search and Rescue Mission Coordinators' Course	7)	

The above courses will be offered to participants from the ASEAN countries and the South Pacific Island States and will cover tuition fees, medical insurance, accommodation and return economy class airfare. The successful candidates will also be provided with a daily living allowance of forty six Singapore dollars (S\$46). Details of the courses and application forms are enclosed.

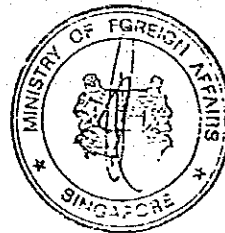
The Ministry further wishes to inform the Embassy that nominations must be submitted on prescribed forms A2-3 in quintuplicate (5 copies) together with the Republic of Singapore Medical Examination Forms (one copy) and X-ray charts.

The Ministry would appreciate it if the Embassy could disseminate the above information to the relevant authorities in Thailand and arrange to forward the nomination forms of candidates to the Ministry before the closing dates of the respective courses.

The Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Singapore avails itself of this opportunity to renew to the Royal Thai Embassy the assurances of its highest consideration.

SINGAPORE
17 February 1986

Royal Thai Embassy
Singapore



bcc Training Manager, PSA
Attn: Mr Menon

Training Supt, CATC
Attn: Mr Chan Wing Dai

Ambassador in Bangkok

Similar TPNS sent to other ASEAN Missions

Y/MAN1

PORT OF SINGAPORE AUTHORITY

- Course : Port Management and Operations
- Objective : The purpose of the Course is to expose middle-management port officers to the principles and concepts of port management
- Duration : 2 weeks commencing from 30 June to 11 July 1986
- No of Fellowships : Fifteen (15)
- Closing Date for Submission of applications : 30 April 1986
- Admission Requirements :
- (i) Senior Port Officers holding middle-management positions
 - (ii) Possess a minimum of ten-year basic education
 - (iii) Experience in port management and operations
 - (iv) A good command of spoken and written English
 - (v) Medically fit to undergo the course
- Course Content :
- (a) Role and significance of ports
 - (b) Legal liabilities
 - (c) Navigation and traffic control
 - (d) Management of container operations
 - (e) Management of conventional operations
 - (f) Management of warehousing operations
 - (g) Labour management
 - (h) Port policing and security
 - (i) Fire Prevention and pollution control
 - (j) Port tariffs
 - (k) Techniques of port planning and development

Course Content:
(contd)

- (l) Computer applications
- (m) Evaluation of container handling systems
- (n) Marketing of port services and customer relations
- (o) Port management game
- (p) Japanese experience in port development
- (q) Future prospect for containerisation in developing countries

.....

PORT OF SINGAPORE AUTHORITY

- Course : Management and Maintenance of Port Equipment
- Objective : The objective of the course is to expose port engineers and technical personnel on systems and procedures involved in the management and maintenance of port equipment.
- Duration : one week scheduled from 14 July to 18 July 1986
- Closing Date For Submission of Application : 14 May 1986 /
- No of Fellowships : Fifteen (15)
- Admission Requirements : (i) Relevant engineering qualifications or recognised Technician Diploma
(ii) Port Officers with experience in the management and maintenance of port equipment
(iii) A good command of spoken and written English
(iv) Medically fit to undergo the course
- Course Content : Equipment procurement procedures and performance evaluation
Maintenance appraisal and information systems
Workshop maintenance systems and procedures
Maintenance systems for container handling equipment
Maintenance of electrical distribution systems and installations
Management of workshop safety
Incentive schemes for maintenance personnel

Course Content : Computerisation of maintenance data
(contd) Training of maintenance personnel
Future trend of port equipment and
maintenance systems in Japan

.....

3. JICA クエスチヨネア

NAME: _____

COUNTRY: _____

PORT MANAGEMENT AND OPERATIONS COURSE

QUESTIONNAIRE

FOR

FINAL COURSE EVALUATION

- I. OBJECTIVES
- II. CURRICULUM DESIGN
- III. COURSE CONDUCT
- IV. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT
- V. TRAINING OUTCOMES

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
(JICA)

I. OBJECTIVES

(1) To what extent were you aware of the objectives of this training program before you came to Singapore?

Please circle the appropriate rating number.

1	2	3	4	5
<hr/>				
not aware				fully aware
at all				

(2) Please indicate whether the main objectives of the Course were

1	2	3	4	5
<hr/>				
not met				fully met

(3) In your opinion to what extent was your expectation of this Course fulfilled?

1	2	3	4	5
<hr/>				
not				completely
fulfilled				fulfilled

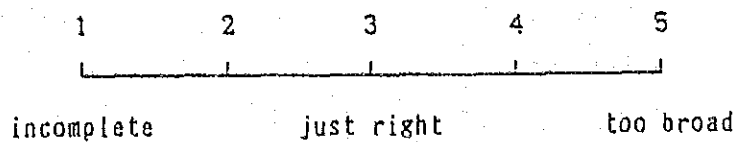
* For the participants who marked degree 1 or 2 of the above items on OBJECTIVES from (1) to (2);

We would like you to give us some comments.

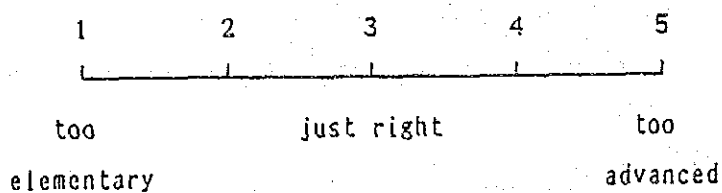
II. CURRICULUM DESIGN

(1) Coverage, Level, Time Allocation, Intensity and Duration;

a) Coverage of the subjects

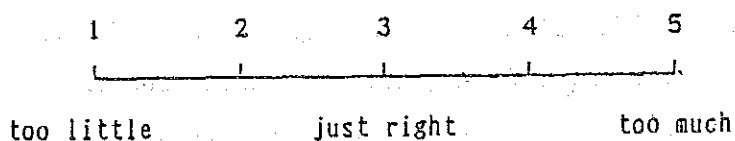


b) Level

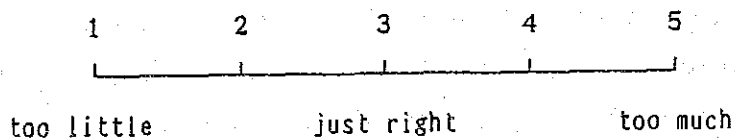


c) Time allocation to:

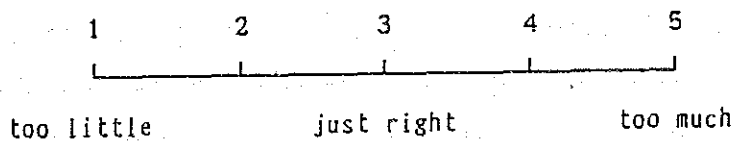
Lectures



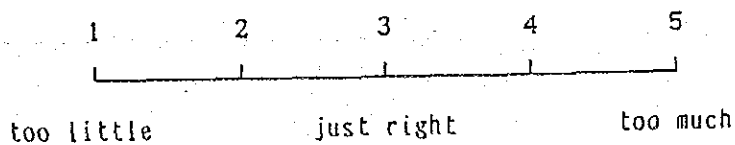
Discussions



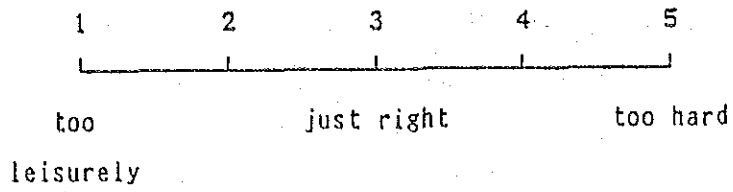
Exercises



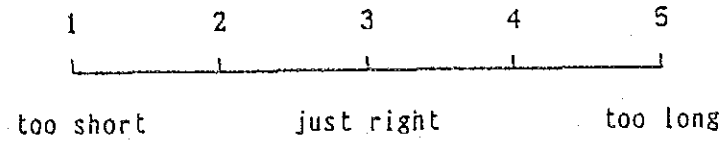
Observations



d) Intensity



e) Duration



* Please comment, if you have any.

(2) Programming of the Topics

Do you think that the topics were programmed systematically?
If you do not, please give us your suggestion to improve the training much better.

(3) THE MOST OR THE LEAST VALUABLE TOPICS

a) What do you think are the two (2) most interesting and beneficial topics in the training program?

1)

2)

b) What do you think are the two (2) least interesting and beneficial topics in the training program?

1)

2)

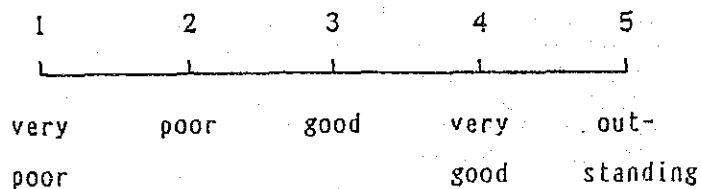
Please comment, if you have any.

III. COURSE CONDUCT

(1) TEACHING METHOD

Evaluate the teaching method of each topic or subject matter by the scale below. Please fill the checklist on next page with the number that approximate your opinion.

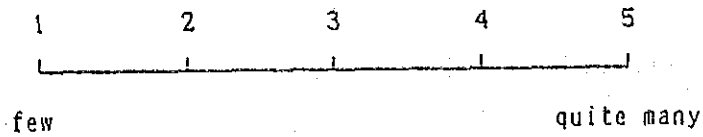
Scale



CHECK POINT TOPICS OR SUBJECT MATTERS	Method of instruction and presentation	Communication language	Trainees involvement and participation	Quality and quantity of training materials	Quality and quantity of training facilities	Total evaluation
Role and significance of ports in maritime commerce						
Shipping trends and impact on ports						
Legal liabilities of port operations						
Navigation and traffic control						
Management of container operations						
Management of warehousing operations						
Labour management						
Port policing and security						
Fire prevention and pollution control						
Port tariff						
Principles and techniques in port planning and development						
Computer applications in port management and operations						
Evaluation of container handing systems						
Marketing of services and customer						
Port management game						
Japan's Experience in Port Development						
Future Prospects on Containerisation in Developing Countries						

(2) Application of techniques and knowledge

Do you think that you will have chance to make good use of the techniques and knowledge you have attained in this Course in your country?



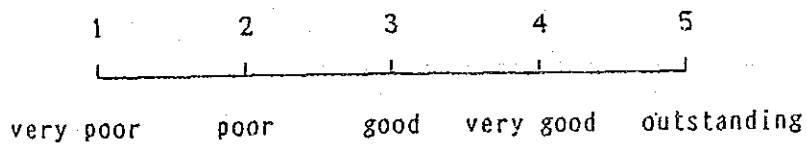
For the participants who marked degree 1 or 2 of the above items on TRAINING OUTCOMES

Please give us some comments.

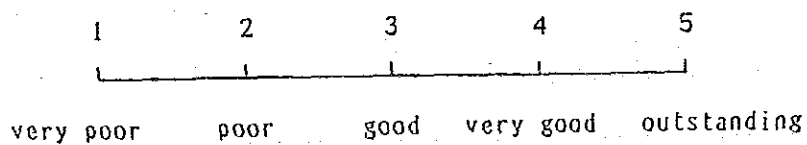
IV. ADMINISTRATION AND MANAGEMENT

How would you describe the general administration and management of the Course?

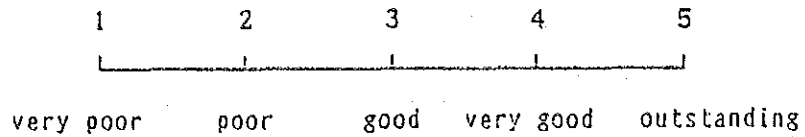
a) Coordination for course conduct:



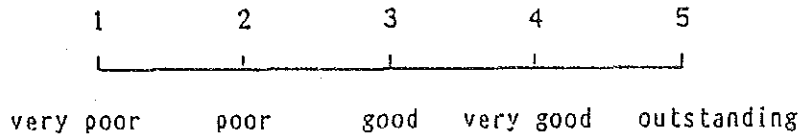
b) Pre-course information (G.I., Briefing and Orientation)



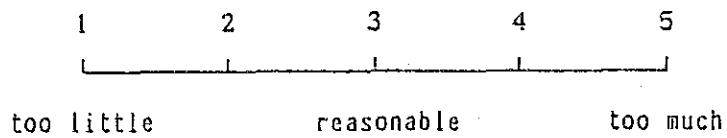
c) Arrangments for observation trips



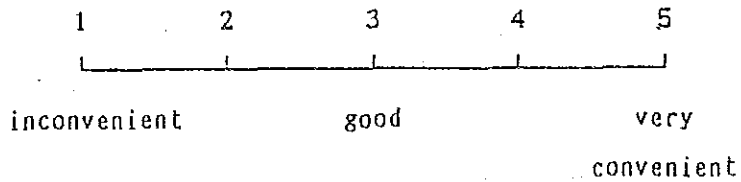
d) Housing and food accommodations



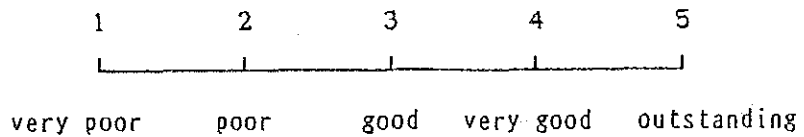
e) Allowance



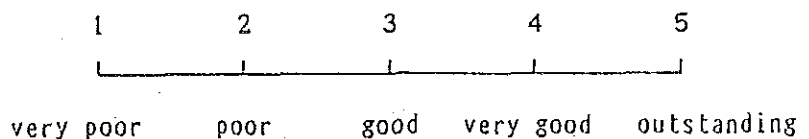
f) Transportation



g) Social program



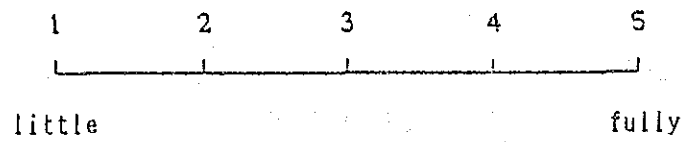
h) Communication among the Participants



Please comment, if you have any.

V. TRAINING OUTCOMES

(1) Attainment of technique and knowledge



4. P S A エバリュエーションシート (港湾管理コース)



PSA

**COURSE
EVALUATION
(IN-HOUSE TRAINING)**

COURSE PARTICULARS

Title: PORT MANAGEMENT & OPERATIONS

Level: SENIOR & MIDDLE MANAGEMENT PORT PERSONNEL

Dates: 30 JUNE - 11 JULY 86

Organised BY: PORT OF SINGAPORE AUTHORITY

The Evaluation Form has been designed to provide feedback on the effectiveness of courses organised in-house. Your honest and constructive comments will enable Training Department to improve the quality in-house training.

COURSE EVALUATION (IN-HOUSE TRAINING)

<u>Sequence</u>	<u>Topic</u>	<u>Trainer</u>
(a)	Role & Significance of Ports	Mr Willie Rasiah
(b)	Navigation & Traffic Control	Mr Raymond Tay
(c)	Principles & Concepts of Port Planning	Mr N A Coomarasamy
(d)	Planning & Development of TPCT	Mr N A Coomarasamy
(e)	Japanese Experience in Port Development	Mr Satoshi Inoue
(f)	Limitations of Liabilities as a Port Operator	Mdm Arlene Oei
(g)	Organisation of Port Operations	Mr Ronald Teo
(h)	Container Ship Operations	Mr Fong Kum Hor
(i)	Container Yard Operations	Mr Fong Kum Hor
(j)	Container Freight Station Operations	Mr S Gunasagaran
(k)	Future Prospects of Containerisation in Developing Countries	Mr Hideki Masuda
(l)	Conventional Ship Operations	Mr Tan Choon Wei

INSTRUCTIONS

1. Please complete all items.
2. For items 1) - 11), give a score from a six-point rating scale :
6 (Excellent) , 5 (Very Good) , 4 (Good) , 3 (Average) ,
2 (Below Average) and 1 (Poor)

A CONTENT

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
1) Coverage of subject matter												
2) Gain in new knowledge, skills, outlook												
3) Usefulness of handouts & notes												
4) On-the-job application of the training received												

- 5) If item 4) was rated 3, 2 or 1, please state briefly the reasons for the low rating.

B TRAINING EFFECTIVENESS

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
6) Objectives and Ideas clearly explained												
7) Contents presented systematically												
8) Realistic examples used												
9) Effective use of audio-visual aid												
10) Discussion encouraged												
11) Guidance given												

COURSE EVALUATION (IN-HOUSE TRAINING)

<u>Sequence</u>	<u>Topic</u>	<u>Trainer</u>
(m)	Organisation of Labour For Conventional Operations	Mr Tan Choon Wei
(n)	Port Performance Indicators	Mr Fong Kum Hor
(o)	Role of Customs in the Port	Mr Kwok Siew Quan
(p)	Evaluation of Container and Cargo Handling Equipment	Mr Chan Chee Tack
(q)	Warehousing Operations	Mr N Gunasekar
(r)	Port Policing & Security	Mr Leong Wai Mun
(s)	Fire Prevention & Pollution Control Measures	Mr B L Hendricks
(t)	Financial Systems in the Port	Mr Simon Yeo
(u)	Port Tariff Structure & Application	Mr V Sivarajan
(v)	Computer Applications in the Port	Mr Anthony Chia
(w)	Marketing of Port Services	Mr Willie Rasiah
(x)	Port Management Games	Mr Lee Hee Huat Mr Fong Kum Hor Mr K T Mathew

INSTRUCTIONS

1. Please complete all items.
2. For items 1) - 11), give a score from a six-point rating scale :
6 (Excellent) , 5 (Very Good) , 4 (Good) , 3 (Average) ,
2 (Below Average) and 1 (Poor)

A CONTENT

	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
1) Coverage of subject matter												
2) Gain in new knowledge, skills, outlook												
3) Usefulness of handouts & notes												
4) On-the-job application of the training received												

- 5) If item 4) was rated 3, 2 or 1, please state briefly the reasons for the low rating.

B TRAINING EFFECTIVENESS

	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
6) Objectives and Ideas clearly explained												
7) Contents presented systematically												
8) Realistic examples used												
9) Effective use of audio-visual aid												
10) Discussion encouraged												
11) Guidance given												

C ACHIEVEMENT OF OVERALL COURSE OBJECTIVES

12)

Completely
Met

Partly
Met

Not At All

D SUGGESTIONS FROM PARTICIPANTS

13) Any suggestions for improving these areas?

* Content

* Training Techniques/Methodology

* Training Aids

* Course Administration

Option : You may wish to include your name, designation and department below

Name : _____ Designation : _____

Department : _____ Date : _____

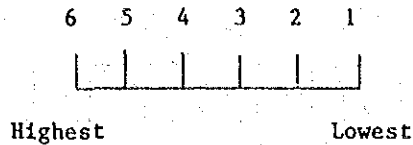
(Thank you for your cooperation in completing this form)

96/EVAL EVA4

5. P S A エバリュエーションレポート (港湾管理コース)

SUMMARY REPORT

I Given below, is a summary of the participants' individual evaluations which were graded on a six-point rating scale :



The average scores for the items under Course Content and Training Effectiveness are represented by the Mean (X).

Achievement Of Course Objectives

16	12	-
Completely Met	Partially Met	Not At All

Course Content

1. Coverage of subject matter.

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	5	4	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

2. Gain in new knowledge, skills and outlook.

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	5	5	4	4	4	4	4	5	4	4
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	4	5	5	4	4	4	5	4	5	5

3. Usefulness of handouts and notes

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	4	5	5	4	5	4	5	4	5	5

4. On-the-job application of the training received

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	5	4	4	4	4	5	5	4	4	4
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5

5. Main reasons for low ratings given to item (4)

Training Effectiveness

6. Objectives and Ideas clearly explained

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	5	4	5	5	4	5	5	5	5	5	4	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

7. Content presented systematically

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	5	4	5	5	4	5	5	5	5	4	4	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	5	5	4	5	5	4	5	4	5	5

8. Realistic examples used

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	4	5	4	4	4	5	5	4	4	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	5

9. Effective use of audio-visual aids

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	5	5	4	4	4	5	5	4	3	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	4	5	4	4	5	4	5	4	4	5

10. Discussion encouraged

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	4	4	4	5	4	5	5	4	3	5
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	5	5	4	4	5	5	5	4	4	5	5	5

11. Guidance given

		Topics											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l
Average Scores	*	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	4
		m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x
	*	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	5	5

II The following comments and suggestions were received from the participants :

Please refer to the attached list.

PORT MANAGEMENT & OPERATIONS

30 JUNE -- 11 JULY 1986

If item 4) was rated 3, 2 or 1, please state briefly the reasons for the low rating.

- In my opinion this course is very good. I gain alot of knowledge about how to handle the port, therefore I will use this in my job.
 - K) The lecture was extremely verbose and purely read out straight from the handout. The lecturer was hampered by language difficulties. Otherwise well presented. No audio visual aids were used.
 - V) Coverage was too general to be of use.
 - K) I Am afraid this lecture was not interesting or properly presented.
 - O) This topic is not relevant to my work.
 - B) Not applicable to own port's situation.
 - D) Certain principles not applicable.
 - K) Not much application of subject matter.
 - The topics have been explained clearly very useful for middle management courses.
 - Due to job not directly related to the field there is little applicable to what I am doing at present. The low scoring does not reveal any deficiency in the course itself.
- 1) Contents on Role of Customs in the Port should touch more on policy rather than their duties in Port.
 - 2) The lecture seems to concentrate more on product marketing rather than service.

Any suggestions for improving these areas?

* Content

- Management Games - more time should be allotted for participants to deliberate and discuss before making their decisions for each 'period' of the game.
- PSA might consider a more 'conventional cargo' oriented course for participants from developing countries - who are still a long way from containerisation and automation. PSA's early years would help make the foundation for such a course.

Cont'd...2/

- A description of the various stages of documentation involved in shipping and customs would be useful.
- Yes, I think your teaching these courses absolutely useful. I am saying the truth, aspect. I suggest each class does not exceed 15 minutes that will be enjoyable for everybody, between each class 15 minutes break. Thank you.
- It's OK.
- Certain subjects just cannot be covered by lectures. They become too brief and shallow. Should be given to the lectures/lecturers to arrange for more time to go just a bit deeper into certain subjects.
- Please include observation tour to other PSA gateways such as Jurong Port or Sembawang.
- 1) Field visit - may help to be more effective rather than lecture.
- 2) There may be some classess on the development artistes of Ports for the developing countries.
- The Port of Singapore is much developed. We shall try to improve our Port in this manner. So, I do not like to suggest anything for improving in this area.
- Prefer to have more activities outside classroom, e.g., visits to Jurong Port, Sea Tour, etc.
- Because the time is limited, the subject should be grouped to 4 groups - Administrations, Container Operations, Conventional Operation and Financial System.
- The coverage of subject matter for this two week course is enough to give the general idea in management and port operation to participants.
- My suggestions if you can make the classes start from 9.00 a.m. till 3.00 p.m. Thank you.
- For some courses, time is not enough to let the lecturers present clearly and more in details.
- Each subject (Handout) proposed to be completed with exercise and actual problem solving. Computer programme related to Port Management are better given to participants to be used and copied.

* Training Techniques/Methodology

- I suggest if you can make more visiting to the port side and more slide and films.
- Training should be more on filed and practical rather than just in seminar room and working paper.

Cont'd...3/

- Should cover more visits to the port area. Before the season starts, the co-ordinator should introduce the speaker to the participants.
- After some major topics are discussed, visits/observation trips to the port and/or office involved in the major topic just finished would supplement the knowledge learnt. Two guided trips to the port were made but I feel an additional 2 to 3 on-the-spot observation tours would have greatly enhanced the benefits obtained from the course. An example would be a visit to the computer office.
- Training system is effectively organised by PSA. All the instructors were quite aware about the respective subject matters and explained very efficiently.
- Please emphasize more on observation of actual port management and operations.
- Please distribute training materials one day before start of lecture to allow reading time.
- Good. Should encourage more use of AV and practical calculations/studies on how certain decisions were reached.
- I impress Mr Fong Kum Hor very much. I hope every lecturer is an excellent lecturer as him. Besides this, I satisfy T.T. of Mr Ronald Teo, Mr Tan Choon Wei and Mr Chan Chee Teck. I think they are well prepared lecturers. Last, but not least significance I appreciate with lecture and team arranging port management game.
- Very good indeed.
- Discussions were sometimes limited because of lack of time. Discussion also sometimes become very specialized and would be better handled on a personal basis after the session. The participation of senior authority officers was greatly appreciated.
- Emphasised the effective use of AVAs.

* Training Aids

- To provide for participants to have hand-on demonstration of 'computers'.
- Excellent.
- The notes supplied will form a useful future reference.
- I would like to see pictures or movies about ports (topic a) and diagram of navigation (topic b). Topic v) is very interesting but a lecture does not let participants have opportunities to touch computer. Apart from this, he uses neither movie nor slides in his lecture, he just explain each of list in a handout.

Cont'd...4/

- Good AVs should be taken advantage of.
- Training aids were more than adequate. However, although all the lecturers thoroughly and extensively know their subjects and related PSA matters, a few lecturers are not adopt in giving lectures and handling audio visual aids. Some have distracting hand mannerisms, others have weak voice projections, one sat down throughout during his entire lecture and one was ill-at-ease. Simple lecture techniques such as using the pointer-stick/rod instead of using fingers on slides would help. Methods used by Mr Fong, Hendricks and Rasiah an hour they delivered their lectures may be followed by others. These 3 are great public speakers/lecturers.
- To show more film
- Training aids should be properly handled.
- Some of the transparencies should be included in the handouts to help better understand the description.
- Very good.

* Course Administration

- 1) Perhaps a bag could be given to every participants to keep all the handouts, notes and folder.
- 2) Prefer not to have more than 3 lectures per day. A more relax pattern is desired.
- Properly handled.
- Suggest that handouts be distributed much in advance of the actual lecture. This way, participants can read them during spare time and prepare more questions/clarifications which can be discussed when the lecture comes.
- Additionally, very cold room, airconditioning level can sometimes get distracting. However, the food and personal attention given by the course administrators were simply terrific!!!
- Suggested that all the related papers should be handed over to the participants early so that they can go through with papers for reference.
- Well planned and executed.
- It's very good. Let me express my feelings, although my literary is not elegance. I impress Miss Rahneh Mahmood very much. She works hard and takes care of us well. Besides, lecturers who devote their time and effort, participants' co-operation, I think course is successful due to her responsibility. Thank you very much.

Cont'd...5/

- More opportunity early in the course needs to be made for participants to get to know one another, particularly since they are from widely divergent background. The self introduction period could have been given more time.
- Very well planned, organised and carried out. PSA staff deserve commendations.
- Organiser should seriously consider that 'halal' food be served during tea-breaks especially to Muslim participants and also to provide for a longer meal break on Fridays to enable Muslims to perform their Friday Prayers.